



日本語とインドネシア語との
バイリンガル・E・マガジン

こむにかし
KOMUNIKASI

E-Magazine Dwi Bahasa antara
Bahasa Indonesia dan Bahasa Jepang

November 2021 No.188

【2】日伊比較文化考

Perbandingan budaya
antara Indonesia Jepang

- 生産者それとも消費者
- Produsen atau konsumen

【3-6】ガドガド GADO-GADO

- 脳の発展段階
- Tingkat perkembangan otak -

【7】 新ユートピア Dunia Impian

- ユートピア (26) 教育 2
- Dunia impian (26) Pendidikan 2 -

【8】 Let's Positiv Thinking

- 誰が見ていなくても
- Walaupun tidak ada yang melihat -

【9-10】インドネシアとの出会い

- Mengenal Indonesia
- ISAFIS とイワン・ファルス
- ISAFIS dan Iwan Fals -

【11-12】フローレスを偲んで

- Aku Terkenang Flores
- 5. Meminta Nasihat (7)
- 5. 助言を求める (7) -

【13-14】幼児教育の基本

- Dasar PAUD (Pendidikan Anak Usia Dini)
- 出来て当たり前?
- Wajar dengan bisa? -

【15-16】人間について考える

- Memikirkan mengenai manusia
- 人間の基本 64 Dasar manusia 64 -

【17-19】小林志郎先生の特別授業

- Kuliah khusus Prof. Shiro Kobayashi
- 世阿弥「老人」Zeami "orang tua" -

【20-21】水物語 Cerita Air

- 28 エビデンスの壁
- 28 Hambatan evidence -

【22-23】実践トヨタ流モノづくり

Praktek Memproduksi dengan cara TOYOTA
- 運搬の原則と効率 (12)

Prinsip pemindahan dan efisiensi (12)

【24-25】広告 Iklan

- 2021 年 11 月、12 月セミナーの案内
- Info seminar bulan November,
Desember 2021 -

【26】ばずるでばはさ

【27】Pelajaran Bahasa Jepang dengan Puzzle

【28】 ああ言えば Ngomong begitu
こう言う Ngomong begini

【29-30】Serat Centhini チェンティニ古文

【31-32】キ・ハジャール・デワントロ

- Ki Hajar Dewantara
- Hal Pendidikan (1) 教育について (1) -

【33】 松下幸之助の言葉

- Kata-kata Matsushita Konosuke
- 物事がよく見えてくる言葉 6 -

Kata-kata yang menjadi

bisa melihat hal lebih baik 6 -

【34】広告 Iklan

【35-36】読者の声 Suara pembaca

【37-38】宮澤賢治の童話から

Dari Dongeng Miyazawa Kenji

- マリヴロンと少女 3 Marivron dan gadis 3-

【38】 編集後記 Dari Redaksi

【39-40】広告 Iklan

【41-42】ISSI が目指すもの Visi Misi ISSI

毎月 6000 名以上の方に日本企業で働く方々を中心に、
「こむにかし I J」発行について
メールで案内をお送りしています。

Setiap bulan mengirim informasi mengenai
"Komunikasi IJ" melalui e-mail
terhadap lebih dari 6000 orang.

Sebagian besar adalah orang-orang
yang bekerja di perusahaan Jepang yang ada di Indonesia.

**日イ比較文化考 Perbandingan budaya antara Indonesia Jepang**

職場における日本人上司とインドネシア人との意見の食い違い。その食い違いの原因をインドネシアと日本との文化の違いに求める人が多いようです。果たしてそうでしょうか。ここでは、問題になりそうなインドネシアと日本の文化、考え方の違いを私なりに考えてみようと思います。

Perbedaan tanggapan antara orang Indonesia dan atasan orang Jepang. Banyak orang menganggap karena perbedaan budaya antara Indonesia dan Jepang. Apakah memang begitu? Di sini saya mencoba memikirkan perbedaan budaya dan cara berpikir yang akan menjadi masalah antara Indonesia dan Jepang.

生産者それとも消費者

インドネシアで仕事をしていると、会社をATMのように思っている人が多いように感じます。会社に入れたということだけで自動的にお金が入ってくる生活を手に入れたという感じですか。おそらく私自身が、従業員として会社勤めをした経験があまりないということもあると思いますが、日本でも同じようなことがあるのではないのでしょうか。

会社は入ってくるお金があるからこそ、従業員に給料を支払うことができます。そのための生産に関わる人が生産者です。会社に来るだけで自動的にお金が入ると思っている人は単なる消費者でしかありません。当然ながら、消費者が増えすぎると会社は潰れてしまいます。実際、潰れたり、リストラしたりする会社が多くあります。それこそ会社の中で消費者が増えている証拠だと思います。

逆に会社の中で生産者が増えれば、自ずと会社は大きくなっていきます。そのために大切なのが会社の中での研修です。日本の会社はその研修によって大きくなったと言っても過言ではないでしょう。会社の発展は国の発展でもあります。多くの人が会社で勉強し、生産者としての技量を高めていく。そのことで国は発展していくのではないかと思います。皆さんはどう思いますか。

Produsen atau konsumen

Begitu bekerja di Indonesia, saya merasa banyak orang anggap perusahaan seperti ATM. Seperti begitu bisa masuk perusahaan saja, dapat uang dengan otomatis. Mungkin karena saya tidak begitu ada pengalaman bekerja di perusahaan sebagai karyawan, maka memikirkan begitu, namun mungkin di Jepang juga ada kondisi serupa.

Namanya perusahaan, karena ada uang yang masuk, maka bisa bayar gaji. Dan orang yang menangani produksi untuk itu, adalah produsen. Orang yang anggap dengan datang ke kantor saja secara otomatis bisa dapat uang, ia adalah hanya sebagai konsumen saja. Tentu saja jika konsumen menjadi terlalu banyak perusahaan akan bangkrut. Secara nyata, ada banyak perusahaan yang bangkrut atau harus mengurangi karyawan. Hal itulah menurut saya salah satu bukti bahwa di dalam perusahaan perbanyak konsumen.

Sebaliknya, jika perbanyak produsen di perusahaan, dengan sendiri perusahaan makin menjadi besar. Dan untuk itu yang diperlukan adalah pendidikan / training di dalam perusahaan. Boleh dikatakan perusahaan di Jepang menjadi besar, karena training tersebut. Perkembangan perusahaan adalah perkembangan negara juga. Banyak orang belajar di perusahaan dan meningkatkan kemampuan sebagai produsen. Dengan begitu menurut saya negara makin berkembang. Bagaimana pendapat anda?



ガドガド GADO-GADO

私が常日頃考えている様々なことを毎月ご紹介いたします。
Mengenalkan setiap bulan, apa yang saya memikirkan sehari-hari.

脳の発達化段階

読者の声で大江さんから先月号の「教育について」で「どこからかの引用ですか」という質問がありましたのでお答えします。

私が書いたことは脳の発達化段階をベースにしています。この発達化段階は小児科のお医者さんが、自分が行なった数多くの診察の結果導き出したものだそうです。私も気になってそのことが書かれていた本を何度か探したり、メモを見返したりしたのですが、残念ながら、見つかりませんでした。

そのお医者さんによると、1歳、3歳、6歳、10歳、15歳を境に子供がかかる病気の種類が大きく変わるといいます。そこから、その時に脳の中で大きな変化が起きているとその先生は考えました。それと共に、その時代ごとに適切な親としての携わり方があると指摘しています。

さて、先ほどの1、3、6、10、15という数字の並びですが、先生はそこに法則があることを見出します。それは $0+1=1$, $1+2=3$, $3+3=6$, $6+4=10$, $10+5=15$ というものです。出てきた年齢に1、2、3と数字を足していきます。これをさらに続けると（これは私のオリジナルです）、 $15+6=21$, $21+7=28$, $28+8=36$, $36+9=45$, $45+10=55$, $55+11=66$, $66+12=78$, $78+13=91$, $91+14=105$ となります。21歳、28歳、36歳、45歳、55歳、66歳、78歳、91歳、105歳と並べると、なんだか人生の中で一つの区切りとなる年齢のような気がします。

ちょっと想像が過ぎたようです。さて、先ほどの話に戻ります。1歳までの子供は100%母親に頼っている存在です。母親に全ての預けている時期です。3歳までは急速に言葉を覚える時期。6歳までは親以外との人とのつながりを感じる時期です。私もそうですが、3歳までの記憶はあまりありませんよね。そして3歳からのことはおぼろげながら意外と覚えています。そして、6歳から初めて新しい物事を学びたいという欲求が芽生えてきます。ですから、その欲求に従うことが、子供を勉強好きにする大きなポイントだと思います。

私は一時期オイスカの関係の方に懇意にさせていただいていました。その方は東南アジアでいくつものオイスカ幼稚園を運営されています。そのオイスカ幼稚園の原則は小学校に入るまでは読み書きなどを一切教えないというものです。そのような知識ではなく、「自分で〇〇ができるようになった」という自分の成長に対する満足感を感じる。それが3歳から6歳までの時期と捉えています。その方に教わった私の好きな言葉に「ウンチと勉強は人に言われてやるものではない」というものがあります。

そのようにしてオイスカ幼稚園を卒園した子供たちはどうなるか。小学校1年の時は、他の幼稚園の卒園生がすでにひらがなが書けるので、成績はあまり良くないそうです。しかし、勉強に対する意欲が旺盛になり、2年生になると、ほとんどの子の成績がクラスのトップクラスになるということです。そして、クラスを引っ張るリーダーシップ的



存在になるのだそうです。

ちなみにこのオイスカ幼稚園の思想は、戦時中に零戦などを設計していた技術者グループの一つの日名子太郎という方のグループによるものだという事です。彼らは敗戦を迎える日本を前にして、「今後の日本はどうあるべきか」ということを真剣に考えたのだそうです。そこで出た答えが、「幼児教育に力を入れるべき」というものだったそうです。そして、どのようにして、充実した幼児教育を行うかを考え、オイスカ幼稚園の思想を作ったということです。ちなみにこの「こむにかしIJ」で、「幼児教育の基本」の執筆をお願いしている飯田和也先生はその日名子太郎先生の愛弟子の一人です。

私ごとで恐縮ですが、私には兄と弟がいます。兄も弟も幼稚園を出ました。しかし、私の時は埼玉に引っ越したばかりで幼稚園が見つからず、仕方なしに保育園に行くようになったそうです。しかし、私の人生にとってその「仕方なしに」行った保育園が思いっきりプラスの結果をもたらしたと思っています。当然ながら、保育園では遊んでお昼寝するだけで、一切、勉強のようなことはしませんでした。その状態で小学校に入ると、学校での勉強がとても楽しくなりました。自慢になりますが、小学校から高校まで皆勤賞です。もちろん成績もそこそこ良かったです。正直言って今まで勉強が嫌いだったことは一度もありません（面倒くさいと思うことは度々ありますが）。だからこそ、今でも本を読んだり（今ではもっぱら YouTube にのめり込んでいますが）テレビを見たりして、新しい物事を貪っています。ちなみに兄も弟もあまり勉強は好きではないようです。このように3歳から6歳まで、勉強をさせたか否かでこうも大きく子供の人生を変えてしまうということをもっと真剣に捉えなければいけないと思っています。今、テレビでは5歳の子がひらがなが書けたりする様子を流していますが、もってのほかです。

次に来る変化が10歳です。10歳になると書く字もしっかりしてきます。また、女性では早い子では初潮が始まったりします。ですから、私は小学校を4年までにして、10歳からは中学校にした方が良いのではと考えています。確か、昔の尋常学校は4年までだったと思います。私の場合を振り返ると、この10歳から15歳までが一番充実していた時期だったように感じます。よくあそこまで色々なことができたなど、自分ながら感心します。そして、15歳になると、男女間での性的な意識が強くなります。また、親や国に対する批判的な考え方が芽生えてくるのもこの時期です。

このように1、3、6、10、15という年齢はとても大きな意味を持っていると思います。小児科の先生が長年の診察の結果から導き出したものなのですから、大いに信憑性はあると思います。これからの教育はこの「脳の発達化段階」をベースにして行えば更に良くなると思います。そして、その後の21、28、36、・・・という年齢にも意味を見つけ、そのこと毎に教育の仕方、人生の過ごし方を考えることで、より豊かな人生を送ることができるのではと考えています。

そう言った意味で、小林志郎先生の世阿弥の教育について非常に興味を持っています。昔の人は、自分自身や周りの人への観察から、この「脳の発達化段階」について気づいていたのではないのでしょうか。ものや情報に溢れた現在、人間を形作っている「脳」の変化について、今一度関心を向けるべき時期が来ているように感じます。



Tingkat perkembangan otak

Dengan suara pembaca, dari bapak Ohe, mengenai “Tentang pendidikan”, ada pertanyaan “sumbernya dari mana?”, maka saya coba menjawab.

Apa yang saya tulis di situ, berdasarkan tingkat perkembangan otak. Tingkat perkembangan otak ini, katanya dari hasil pemeriksaan yang jumlah banyak oleh dokter anak. Saya pun karena penasaran, mencari buku tersebut dan memo, namun sayangnya tidak bisa ketemu.

Menurut dokter tersebut, dengan batas usia 1, 3, 6, 10, 15, jenis penyakit yang kena oleh anak, berubah secara drastis. Dari kondisi tersebut dokter memikirkan mungkin ada kaitan dengan perubahan otak. Sama dengan itu dia menunjuk bahwa pada zaman masing-masing ada cara menghadapi anak sebagai orang tua.

Ngomong-ngomong mengenai deretan angka 1, 3, 6, 10, 15, dokter tersebut menemui ada suatu aturan di situ. Iya adalah $0+1=1$, $1+2=3$, $3+3=6$, $6+4=10$, $10+5=15$. Terhadap angka (usia) yang di hasilkan, menambah angka 1, 2, 3... Jika dilanjutkan lagi (setelah ini original saya pribadi) menjadi $15+6=21$, $21+7=28$, $28+8=36$, $36+9=45$, $45+10=55$, $55+11=66$, $66+12=78$, $78+13=91$, $91+14=105$. Jika melihat usia 21, 28, 36, 45, 55, 66, 78, 91, 105, saya merasa ada batas di atas kehidupan kita sendiri.

Oh iya, kelihatannya imajinasinya berlebihan. Kita kembali ke cerita yang tadi. Kalau sampai usia 1 tahun, kondisi tergantung 100% pada ibu. Masa yang semua serahkan pada ibu. Sampai usia 3 tahun, masa yang menanggapi bahasa secara cepat sekali. Sampai usia 6, masa yang merasakan hubungan antara orang selain orang tua. Kalau sampai usia 3 tahun, mungkin tidak ada ingatannya ya. Saya juga begitu. Dan setelah usia 3 tahun, walaupun tidak begitu jelas, namun agak ingat. Dan setelah usia 6, baru tumbuh keinginan ingin mempelajari hal yang baru. Oleh karena itu, hal yang mengikuti keinginan anak itulah poin yang sangat besar, apakah anak menjadi suka belajar atau tidak.

Sesaat, saya disayangi oleh orang OISCA. Orang itu menjalankan beberapa TK di seluruh Asia Tenggara. Prinsip TK OISCA tersebut, adalah sebelum masuk SD, sama sekali tidak mengajarkan baca menulis dsb. Bukan pengetahuan seperti itu, namun merasakan kepuasan terhadap perkembangan diri sendiri seperti “dengan sendiri menjadi bisa ○○”. Dianggap hal seperti itulah masa usia 3 sampai 6 tahun. Kata yang diajari oleh orang tersebut, ada “buang air besar dan pembelajaran, bukan hal yang dilakukan karena di omongi oleh orang lain”.

Anak-anak yang lulus TK OISCA seperti itu, nanti menjadi seperti apa? Pada waktu SD kelas 1, karena anak-anak lulusan TK yang lain sudah bisa menulis Hiragana, maka katanya nilainya tidak begitu bagus. Namun penasaran mau belajar hal yang baru, maka setelah menjadi kelas 2, katanya hampir semua anak lulusan TK OISCA, nilainya menjadi tertinggi di dalam kelas. Dan menjadi keberadaan sebagai leader yang menarik di dalam kelas.

Ngomong-ngomong, filsafat TK OISCA ini, dari groupnya bapak Taro Hinako yang salah satu kelompok menciptakan pesawat tempur ZERO SEN. Mereka sebelum Jepang kalah perang, memikirkan dengan serius “Jepang yang akan datang sebaiknya



bagaimana?” Dan jawaban yang didapatkan di situ adalah “Harus memperkuat pendidikan anak”. Dan memikirkan bagaimana menjalankan pendidikan anak, dan membentuk filsafat TK OISCA. Kalau bapak Kazuya Iida yang minta menulis “Dasar PAUD (Pendidikan Anak Usia Dini)” di “Komunikasi IJ” ini, adalah salah satu murid yang disayangi oleh bapak Taro Hinako.

Ijinkanlah saya cerita mengenai saya sendiri. Saya punya kakak laki-laki dan adik laki-laki. Kakak dan adik, dua-duanya lulus TK. Tetapi pada waktu saya, karena baru pindah ke Saitama dari Tokyo, tidak bisa ketemu TK dan dengan paksa saya ke penitipan anak. Namun demikian masuk penitipan anak “dengan paksa” itulah memberi nilai plus besar bagi kehidupan saya sendiri. Saya anggap begitu. Tentu saja, kalau di penitipan anak, hanya main dan tidur siang saja, sama sekali tidak pernah belajar apa pun. Dengan kondisi seperti itu, begitu masuk SD, saya merasa belajar itu sangat senang. Maaf saya memamerkan sedikit, dari SD sampai SMP, saya tidak pernah bolos sekolah. Nilai juga agak bagus. Dengan jujur, saya boleh ngomong saya tidak pernah merasakan tidak suka belajar (pernah memikirkan malas itu ada). Oleh karena itulah sekarang pun saya rakus mencari hal yang baru dengan baca buku dan nonton TV (kalau sekarang utamanya menjadi nonton YouTube). Kelihatannya kakak dan adik saya, kelihatannya tidak begitu suka belajar. Dengan demikian, sejak usia 3 sampai 6, dengan suruh belajar atau tidak, begitu mempengaruhi kehidupan anak itu sendiri. Menurut saya kondisi itu harus memikirkan seserius mungkin. Sekarang di TV, ada adegan anak usia 5 tahun bisa baca dan menulis Hiragana, namun hal itu sangat tidak bisa dihargai.

Kemudian perubahan yang datang lagi adalah usia 10. Kalau menjadi 10 tahun, huruf yang menulis juga menjadi mulai bagus. Dan kalau perempuan, yang cepat, mulai mens. Maka menurut saya, SD dijadikan sampai kelas 4, dan setelah usia 10, lebih bagus dijadikan SMP. Kalau tidak salah, SD jaman dulu di Jepang, sampai kelas 4. Jika memikirkan kembali mengenai saya sendiri, dari 10 sampai 15 tahun inilah masa yang betul-betul padat dan aktif. Saya sendiri kagum terhadap saya sendiri pada masa itu, kok bisa melakukan berbagai macam sampai begitu. Dan kalau menjadi usia 15, perasaan sex antara laki-laki dan perempuan menjadi tinggi. Dan mulai kritik terhadap orang tua atau negara juga pada waktu masa tersebut.

Dengan demikian, menurut saya usia 1, 3, 6, 10, 15 ini, mempunyai arti sangat besar. Karena yang ditemukan oleh dokter anak dari hasil pemeriksaan anak secara nyata dalam waktu yang sangat lama, maka menurut saya dapat dipercaya. Menurut saya, kalau pendidikan untuk masa depan, jika disusun oleh “tingkat perkembangan otak” ini, menjadi lebih bagus lagi. Dan mencari arti pada usia 21, 28, 36... juga, dan setiap usia tersebut memikirkan cara belajar, cara hidup, mungkin bisa lebih memantapkan kehidupan kita.

Dalam arti seperti itu, saya sangat tertarik pada pendidikan ZEAMI yang ditulis oleh bapak Shiro Kobayashi. Orang zaman dulu, jangan-jangan dari pemantauan orang sekitar, sudah menyadari “tingkat perkembangan otak” ini. Zaman sekarang yang banjir dengan barang dan informasi, saya rasa datang waktu untuk memperhatikan perubahan “otak” yang membentuk manusia.

**新ユートピア Dunia Impian**

インドネシアと日本とが協力すれば、今までにない素晴らしい世界がつかれるのではないのでしょうか。
そういう観点から私の夢を広げていきたいと思えます。
Jika kerja sama dengan Indonesia dan Jepang, ada kemungkinan bisa menciptakan dunia bagus yang sebelumnya tidak ada.
Dengan dasar pikiran seperti itu, saya menerangkan impian saya.

ユートピア (26) 教育 2

今の教育で重要視されているのは、考える力、ものを素直に見る力、そしてそれぞれの子供の持つ特質を生かすことです。

そのため、親も先生も子供の発する言動や行動にいつも注意を払っています。特に、子供がある物事に集中している場合、なるべくそれを妨げないようにしています。そして、何に集中しているのか、どうして集中しているのか、親や先生が真剣に観察します。

そして、その集中しているものがはっきりすると、そのことをさらに発展させることができるように環境を整えます。例えば動物に興味があるとわかった場合、動物に関する本を揃えたり、動物園の飼育員と一緒に話せる場を作ったりします。

そして、そこから子供たちはもっと読み書きができるようになりたいとか、生物についてもっと知りたいとか思うようになります。つまり教育とは教わるものではなく、自分で追求するものなのです。

Dunia impian (26) Pendidikan 2

Di atas pendidikan sekarang, yang dipentingkan adalah menumbuhkan daya pikir, daya melihat sesuatu dengan hati tulus, dan meningkatkan kekhususan yang dimiliki masing-masing anak.

Untuk itu, baik orang tua maupun guru, selalu memperhatikan kata-kata dan kelakuan yang muncul dari anak sendiri. Khususnya jika anak lagi konsentrasi pada suatu hal, sebisa mungkin tidak menghalangi kondisi tersebut. Dan orang tua dan guru, memantau anak bahwa lagi konsentrasi terhadap apa, kenapa konsentrasi.

Dan jika telah jelas konsentrasi pada apa, menata lingkungan agat hal tersebut lebih berkembang lagi. Misalnya telah jelas anak tertarik pada binatang, menyiapkan buku-buku yang ada kaitan binatang, dan menyiapkan tempat agar bisa ngobrol staff kebun binatang dsb.

Dan dari kondisi tersebut, anak-anak muncul keinginan, seperti ingin menjadi pintar baca dan menulis, atau ingin belajar biologi lebih dalam dsb. Maksudnya namanya pendidikan, bukan hal yang diajari, namun hal yang menuntut dari keinginan sendiri.

ホームページアドレス広告募集
「こむにかし I J」を送付する際の送付状にホームページのアドレスと簡単な説明書きを付けてお送りします。説明書きは日本語とインドネシア語です。現在、6,000名以上の方に案内のメールをお送りしています。一件 38 万ルピア

Iklan Adress WebSite
Pada waktu mengirim "Komunikasi IJ", memasang adress WebSite anda dengan keterangan singkat, pada e-mail. Keterangan tersebut dipasang dalam bahasa Indonesia dan bahasa Jepang. Sekarang mengirim e-mail informasi, lebih dari 2,000 orang. Harga satu iklan: Rp.380.000-

**Let's Positiv Thinking**

世の中がよく見えるも悪く見えるも考え次第。自分の考え方をコントロールすることができれば、今までにない素晴らしい人生を送ることができます。
Kelihatan dunia ini, menjadi baik atau menjadi buruk, semua tergantung cara pikir sendiri.
Jika bisa kontrol cara pikir sendiri, bisa hidup dalam kehidupan yang bagus yang selama ini belum pernah dirasakan.

誰が見ていなくても

仏法の考え方の一つに「同生同名（どうしょうどうみょう）」という考え方があります。同生同名という二人の神が左右の肩に乗っていて、一人が神様に報告している間、もう一人の神が自分の行動や考えたことを見ていて、一人の神が帰ってくると、もう一人の神が報告に行くという仕組みです。ですから、自分が行動したり考えたりしたことは全て神様に報告されているということです。「神様は全てお見通し」という言葉もよく使われます。

自分がしたこと、考えたことは業として積み重なっていきます。そしてその業は生まれ変わってもずっと続きます。悪い業の場合、それを拭い去らないと自分の運命を良い方向に向かわせることができません。

ですから、もし、悪いことが起きた場合、「これは悪い業を拭い去っている証拠だ」と思えば気が楽になります。逆に良いことをしているのに認められない場合「今認められなくても来世で認められる」と考えるとまた気が軽くなります。

どんなことがあっても神様はしっかり見ててくれる。それは本当の意味での心の支えになると思います。

Walaupun tidak ada yang melihat

Di atas salah satu ajaran agama Budha, ada “Lahir sama nama sama”. Ada 2 dewa bernama lahir sama nama sama di kedua pundak, dan selama salah satu dewa melaporkan ke Tuhan, dewa satu lagi memantau apa yang dilakukan apa yang dipikirkan, dan begitu balik satu dewa, satu lagi pergi melaporkan ke Tuhan. Maka apa yang dilakukan dipikirkan sendiri, semua dilaporkan ke Tuhan. Ada juga kata “Tuhan tahu semua”.

Apa yang dilakukan sendiri, apa yang dipikirkan sendiri, semua menumpuk sebagai karma. Dan karma tersebut setelah lahir kembali pun berlanjut terus. Jika karma yang negatif, kalau tidak dibersihkan tidak bisa perbaiki nasib sendiri.

Oleh karena itu, jika terjadi hal yang tidak baik, kalau memikirkan “ini salah satu bukti sedang menikmati karma”, hatinya menjadi ringan. Sebaliknya walaupun melakukan hal yang baik dan tidak ada yang mengakui, kalau memikirkan “walaupun kehidupan sekarang tidak diakui, di atas kehidupan berikut, akan diakui”, hatinya menjadi ringan.

Terjadi hal apa pun, pasti Tuhan akan melihat. Dengan berpikir begitu, menjadi dukungan kuat untuk hati kita sendiri secara benar.

**インドネシアとの出会い Mengenal Indonesia**

筆者（奥信行）がインドネシアと出会ってから結婚するまでの物語です。Kisah penulis (Nobuyuki Oku), sejak mengenal Indonesia sampai menikah.

ISAFIS とイワン・ファルス

私がインドネシア大学で勉強していた頃、ISAFIS という組織に関わっていました。ISAFIS とは International Student Association For International Studies の略です。どのようなきっかけでその ISAFIS に関わるようになったのかははっきり覚えていませんが、定期的に会合に出ていました。

その活動に参加していた学生は確かナショナル大学の学生が多かったような気がします。ジャカルタの目抜き通りにある高級なステーキ屋さんが会合の会場になっていました。おそらく会員は上級階級の学生が多かったのだと思います。その会合でどんな話をしたのかは覚えていません。しかし、当時、スハルト政権下で会合が厳しく制限されていたのにそのような会合ができたということは、その組織に政治的に力のある人が関わっていたからではないかと思います。

ISAFIS の活動の中で印象に残っているのはチブブールというボーイスカウトのキャンプ場で開かれたコンサートです。その頃、私はインドネシア大学のマーチングバンドに所属していました。（もしかしたらそのマーチングバンドのメンバーに誘われて ISAFIS に入ったのかもしれませんが）本職はトロンボーンでしたが、フルートも練習していたので、友達に無理矢理舞台上げられフルートを吹いたのを覚えています。

その同じ舞台上でも今でも人気があるイワン・ファルスという歌手も出演しました。というより、そのイワン・ファルスのコンサートだったのではないかと思います。当時、あまりインドネシア語はできませんでしたが、そのイワン・ファルスの歌っていた歌詞を今でも少し覚えています。「大学生が卒業論文を買う」といった内容でした。その時はイワン・ファルスがどんな歌手なのか知りませんでした。それ以来イワン・ファルスの大ファンになりました。

当時のアルバムはカセットテープでした。私は全てのイワン・ファルスのテープを手に入れました。イワン・ファルスのカセットには歌詞カードが入っているので、その歌詞を全てワープロ（当時はコンピューターがなくまだワープロの時代でした）で綺麗に打ち直しました。そして、その歌詞を全て日本語に翻訳しました。当然、ほとんどの歌を口ずさむことができます。その作業が私のインドネシア語の勉強に非常に役に立っています。

その後、なんと私の友達が、「奥、イワン・ファルスが好きなのか。会いたいか。」と私に言ってきました。私はすぐに「会いたい」と返事しました。すると、その友達はイワン・ファルスが練習しているスタジオに私を連れて行ってくれたのです。チブブールでのコンサートの話をすると、「お前はあの時フルートを吹いていたやつか」と私のことを覚えてくれました。本当に嬉しかったです。

その後も何度かその友達は私をイワン・ファルスに会わせてくれました。その友達は兄弟がスランクというロックバンドを組んでいて、プロデューサーのようなことをしていたようです。当時は従兄弟がグラス・ロックというバンドを組んでいて、そのグラス・ロックがイワン・ファルスのバックバンドになってインドネシアの 100 都市でコンサートを行うという計画をしていました。しかし、ジャカルタの川の汚さを歌った歌が原因かどうかわかりませんが、ジャカルタでのコンサートを一回やっただけでその計画は無くなってしまいました。

冗談ではありますが、「イワン・ファルスと同じ舞台上に立ったことがある」というのが、私の一つの自慢になっています。



ISAFIS dan Iwan Fals

Waktu saya belajar di Universitas Indonesia (UI), saya mengikuti suatu organisasi bernama ISAFIS. ISAFIS adalah singkatan dari International Student Association For Internasional Studies. Saya tidak begitu ingat, dengan kesempatan seperti apa menjadi ikut ISAFIS, namun saya mengikuti pertemuan secara rutin.

Mahasiswa yang mengikuti kegiatan tersebut, kelihatannya kebanyakan mahasiswa dari Universitas Nasional. Restoran stake istimewa yang ada di pinggir jalan utama di Jakarta, menjadi tempat pertemuan. Mungkin kebanyakan anggota adalah mahasiswa orang kaya. Saya tidak begitu ingat, apa yang dibicarakan di pertemuan itu. Namun bisa mengadakan pertemuan seperti itu di bawah pemerintahan presiden Soeharto yang ketat pengaturan, berarti mungkin di organisasi itu ada orang yang punya kekuatan politik.

Di antara kegiatan ISAFIS, yang masih ingat adalah sebuah konser yang diadakan di Cibubur buat tempat latihan pramuka. Pada waktu itu, saya ikut marching band UI. (Mungkin saya masuk ISAFIS karena diajak salah satu teman yang ada di marching band). Alat yang saya main adalah trombone, namun saya latihan flute juga, maka saya dipaksakan oleh teman untuk naik panggung dan main flute.

Di panggung yang sama, hadir Iwan Fals yang sekarang pun terkenal. Sebenarnya mungkin konser tersebut adalah konser Iwan Fals. Waktu itu, saya tidak begitu pintar bahasa Indonesia, namun sekarang pun masih ingat lirik lagu Iwan Fals yang waktu itu dinyanyikan. Isinya “mahasiswa beli skripsi”. Pada waktu itu, saya tidak tahu Iwan Fals itu penyanyi seperti apa, namun sejak itu saya menjadi fans berat Iwan Fals.

Album waktu itu adalah casset tape. Saya beli semua casset Iwan Fals. Kalau di casset Iwan Fals ada lembaran lirik lagu, maka saya ketik semua lirik lagu dengan word processor (pada waktu itu, belum ada computer). Dan lirik-lirik tersebut, semua terjemahkan ke bahasa Jepang. Tentu saja hampir semua lagu bisa nyanyikan. Kegiatan tersebut, sangat berguna untuk meningkatkan kemampuan bahasa Indonesia sendiri.

Setelah itu, ternyata teman saya ngomong ke saya “Oku, suka Iwan Fals ya. Mau ketemu dia ngak?” Saya langsung jawab “mau”. Dengan begitu teman tersebut bawa saya ke tempat latihan Iwan Fals. Saya bicara Iwan Fals mengenai konser di Cibubur, ternyata dia ingat saya “oh yang main flue waktu itu ya”. Saya betul-betul senang sekali.

Setelah itu pun teman tersebut menemukan saya ke Iwan Fals. Teman tersebut, saudaranya bikin rock band bernama Slank, dan kelihatannya dia menjadi seperti produser. Waktu itu, saudara supupu dia bikin band bernama Grass Rock dan bikin rencana konser 100 kota di Indonesia, dengan Grass Rock menjadi bandnya Iwan Fals. Namun apakah karena Iwan Fals menyanyikan kotornya sungai di Jakarta atau tidak, hanya diadakan konser di Jakarta saja, rencana tersebut tidak ada lagi.

Walaupun becanda, salah satu kebanggaan saya adalah “Saya pernah naik panggung yang Iwan Fals naik”.

**フローレスを偲んで Aku Terkenang Flores**

第二次大戦中にフローレス島を統治していたサトウ・タスク大尉の手記です。
原本は英語。それをインドネシア語に翻訳したものを出版社の協力を得て日本語の翻訳を添えて掲載できるようになりました。
Buku catatan Kapten Tasuku Sato, yang menangani pulau Flores, pada perang dunia kedua.
Aslinya bahasa Inggris. Dengan dukungan penerbit, yang diterjemahkan ke bahasa Indonesia, bisa tampilkan di sini, berikut terjemahan bahasa Jepang.
購入等の連絡は直接下記出版社まで。Jika ingin beli buku, tolong hubungi penerbit yang ada di bawah ini.
Nusa Indah: e-mail: nusaindahende@yahoo.com hendrik_kerans@yahoo.com

Bagian Pertama: Tugas di lautan Pasifik

5. Meminta Nasehat (7)

“Saya tidak percaya bahwa pemerintah atau undang-undang kita dapat mengubah cara pikir rakyat. Apalagi mengubah kepercayaan mereka, terutama jika mereka Katolik. Sekarang, kita membebankan rakyat di sini dengan kesulitan dan kekerasan sebagai akibat perang. Jika kita merampas hiburan yang mereka terima dari iman mereka, dapatkah kita mengharapkan bahwa mereka tidak akan memberontak? Tindakan demikian bertentangan dengan tujuan pemerintahan kita yang sesungguhnya dan membingungkan kaum militer. Saya ini bukan Kristen. Saya pun tidak tahu banyak tentang Katolik atau agama lain. Akan tetapi, saya mengerti rakyat dan pentingnya keyakinan agama mereka.”

“Setiap orang mempunyai pendapat sendiri. Akan tetapi, keputusan ini telah diambil dan disahkan oleh konferensi. Sekarang tugas Tuan ialah melaksanakannya, Tuan Komandan.”

“Siapakah yang bertanggung jawab atas pemerintah yang bijaksana di pulau ini?”

“Tuan sendiri, Tuan Komandan.”

“Baik, Persoalan ada pada tanganku sekarang, dan Anda boleh yakin saya tidak akan bertindak bertentangan dengan apa yang saya yakin baik untuk rakyat dan untuk pemerintah kita. Sayalah satu-satunya orang yang bertanggungjawab atas ketertiban umum seperti halnya juga untuk melaksanakan keputusan ini.”

“Akan tetapi, keputusan toh sudah diambil...”

“Terima kasih atas buah pikiran Anda. Saya akan memperhatikannya. Selamat malam.”

San opsir berangkat. Mungkin ia merasa marah kepada kapten muda ini. Saya mengambil keputusan untuk tidak melaksanakan keputusan untuk menawan para misionaris, jika cuma berdasar informasi yang diberikan oleh dokumen ini.



第1章 太平洋における任務

5. 助言を求める (7)

「私は我々の政府もしくは法律によって民衆の考え方を変えることができるとは思えない。それが彼らの信仰を変えるということになるとなおさらのことだ。特に彼らがカトリックの場合。現在、我々は戦争の結果として民衆に対し困難と暴力という負担をかけている。もし我々が彼らの信仰から彼らが得ている安らぎを奪い取ったとして、我々は彼らが将来反抗しないという期待を抱くことができようか。そのような行動は我々の本来の政府の目的と反することになり、軍関係者を悩ますことになる。しかしながら、私は民衆および彼らの信仰の重要性を理解している。」

「それぞれの人が自身の考え方を持っています。しかし、この決定は会議によって正式に下されたものです。今、閣下の任務はそれを実行することであり、司令官殿。」

「この島において賢明な政府の名において責任を有しているのは誰かね。」

「閣下自身であります。司令官殿。」

「よろしい。現在、問題は私の手の元にある。そして、あなたは民衆のため、そして我々の政府のために私が信じている物事に反しない行動を取ることを信じるがよろしい。全体の安寧について責任を持っているたった一人の人間は私である。この決定の実行についても同様である。」

「しかしながら、決定は既に下されました・・・。」

「あなたの考えに対し礼を言おう。私はそれを考慮することにする。おやすみ。」

指揮官は立ち去った。おそらく彼はこの若い司令官に怒りを感じていることであろう。この書類によって得られた情報のみによって、宣教師たちを捕虜にするための決定を実行しないという決定を私は下す。



幼児教育の基本 Dasar PAUD (Pendidikan Anak Usia Dini)

最近、残念なことにインドネシアでもいじめの問題が出始めているようです。私は個人的に幼児教育がいじめの問題に深く関わっているのではないかと考えています。この度日本の幼児教育の大家であられる飯田和也先生のご協力で幼児教育についてのお考えを掲載できる運びとなりました。

インドネシアのそして日本のいじめ問題その他に少しでも貢献できればとおもいます。

Sayangnya baru-baru ini, di Indonesia juga mulai muncul masalah bullying.

Saya secara pribadi anggap masalah bullying satu penyebabnya ada di PAUD.

Kali ini dengan kerja sama bapak Kazuya Iida seorang pakar PAUD besar di Jepang, dan bisa mengenalkan pikiran beriau.

Saya berharap bisa kontribusi untuk mengatasi masalah bullying, baik di Indonesia maupun di Jepnag.

出来て当たり前？

ちょっと・待って、初心に戻ったら 変化していて感動でした。

子どもがはさみを使えて当たり前ですか、紙飛行機が折れて当たり前ですか。おはようと言って当然ですか。ありがたいと言えるのが普通ですか。子どもが少し大きくなると、できるのが当たり前に見てしまう生き方をしているのを時には見直したいものです。

人は大きくなるにつれて、できることが当然と見てしまう生き方になってしまっていたことを気づかせられ、また、子どもの心に傷をつけていることもあります。「●●ちゃん、はいは？」●●ちゃんが、はいと返事すると母親「●●ちゃん、はい言えるようになって凄ね。」しばらくこの「はい」のやり取りを楽しんでいる親子でしたが、しばらく経つと、はいと言えることは当たり前となり無視・無関心になっている姿を見ます。子どもは、思い面白いことを言っても・新しい発見を伝えても、できることは当たり前となって喜びを表すことをなくしてしまう母親がたくさんいます。時々、親子で初めての体験を見つめなおして、ほめてあげた時のことを再現して子ども授かった喜びを味わい、当たり前でないことを再確認し意欲を伸ばしたいものです。

おはようと言えた時の感激・初めて立ち上がった時の成長の喜び・先生の言葉を我慢して静かに椅子に座って聞いている姿を見て驚いた時・友達の歌っているのを聴きながら大声を出さないで声を合わせて歌う姿・初めて逆上がりができる姿を見た時・「お母さんご飯を作ってくれてありがとう」ありがたい言葉を聴いたとき。妹が雨に濡れているのを見て傘をさしてあげる姉の優しい姿を見た時。このようにわが子が人生で初めて体験した時の姿を思い出し家族で喜び合った時がありました。

笑顔とぬくもり、そして、うれし涙が出たこともあったはずです。その時に自分の生活している環境や育て方、家族での触れ合い方が、子どもの将来の生き方に良い影響を与える母親・家族でいたいものです。

食べ終わった食器を「自分で洗う」といって子どもが食器を洗いました。お母さんA「まだ少し食べたのがついているよ」お母さんB「洗ってくれてありがとう」お母さんC「・・・」無言のまま無関心。このように世話しすぎ・言い過ぎのタイプや感謝を込めて受け入れる、さらには無関心なタイプなど様々です。子どもが一番嫌いな愛情の反対の無関心な親にはなりたくないものです。

自分から●●する生き方を家族、集団で、できるようにするのが教育・育て方です。そのためにできるようになった時が当たり前でなく、できてよかったね、できるようになって良かったねとほめます。先生だけでなく子どもが子どもを褒めることで出来た喜びはさらに倍増します。

子どもが出来た時に、ママ見てといった場合、必ず「具体的に●●が出来たね」ほめて愛されていると感じる家庭の温かい雰囲気を作ることで、将来・困難を乗り越える家族に囲まれていると信じる子どもになります。できて当たり前でないことを見直したいものです。



Wajar dengan bisa?
Sebentar, begitu kembali hati pertama,
karena merasa adanya perubahan maka menjadi terharu

Apakah anak bisa menggunakan gunting, apakah wajar? Apakah anak bisa melipat pesawat kertas, apakah wajar? Anak bisa ucapkan terima kasih, apakah wajar? Kalau anak menjadi sedikit besar, kelihatannya bisa melakukan sesuatu semua dianggap hal yang wajar. Namun kita ingin mewawas diri yang pandangannya menjadi begitu.

Namanya manusia, makin besar makin menjadi pandangan hal yang bisa adalah hal yang wajar. Dan kita menyadari hal tersebut dan kadang-kadang hal tersebut melukai hati anak. “De ●●, ngomong ‘iya bu’ kan?” Begitu si ●● jawab iya bu. Ibu katakan “Oh, sekarang bisa ngomong ‘iya bu’ ya, hebat ya.” Sementara waktu kelihatannya orang tua dan anak menikmati suasana seperti itu. Namun begitu melewati agak lama, orang tua anggap, ngomong ‘iya bu’ itu menjadi hal yang wajar. Dan menjadi cuek dan tidak peduli. Saya sering melihat kondisi seperti itu. Walaupun anak ngomong hal yang lucu, menyampaikan penemuan yang baru, orang tua anggap bisa begitu itu hal yang wajar. Sehingga banyak ibu yang tidak menjelaskan hati senang. Kadang-kadang kita ingin ingat kembali pengalaman pertama, dan memerangkan kembali pada waktu memuji anak. Dengan demikian merasakan kebahagiaan pada waktu mendapatkan anugrah dari Tuhan, dan menanggapi kembali, bahwa sebenarnya bisa melakukan sesuatu itu bukan hal yang wajar.

Rasa gembira pada waktu pertama kali bisa ngomong “selamat pagi”. Rasa senang pada waktu pertama kali bisa berdiri. Pada waktu kaget, melihat sosok anak yang dukuk di kursi dengan tenang dan dengan sabar mendengarkan kata-kata guru. Sosok anak sendiri yang pada waktu nyanyi bersama, tidak mengeluarkan suara yang terlalu besar dan mengikuti suara teman-teman. Pada waktu baru pertama kali bisa naik sepeda. “Ibu terima kasih bikin masakan”, pada waktu dengar kata “terima kasih” seperti itu. Pada waktu melihat tindakan kakak yang penuh kasih sayang terhadap adik, seperti pada turun hujan dan melihat adik basah dengan hujan, kakak memberi payung ke adik. Dengan demikian, jika ingat kembali kondisi anak yang baru pertama kali bisa melakukan sesuatu, bisa saling gembira di dalam keluarga.

Mesti ada wajah senyum dan kehangatan. Kadang-kadang saking terharu keluar air mata. Pada waktu itu, menyadari bahwa lingkungan yang hidup diri-sendiri, cara mengasuh, cara bergaul di dalam keluarga memberi pengaruh yang baik pada kehidupan anak yang akan datang. Kita ingin menjadi ibu dan keluarga seperti itu.

Anak cuci piring sendiri dengan katakan “mau cuci sendiri”. Ibu A “Kok masih ada sisa makan”. Ibu B “Terima kasih ya sudah dicuci ya”. Ibu C “...”(tidak ngomong apa-apa, cuek). Dengan begini, tipenya macam-macam, seperti terlalu ikut campur, terlalu ngomong banyak, menerima dengan rasa terima kasih, dan cuek. Kita ingin jangan menjadi orang tua yang cuek yang baliknya kasih sayang yang paling tidak disukai oleh anak.

Agar bisa mewujudkan cara hidup yang bisa melakukan ●● dengan inisiatif sendiri, dengan dibantu oleh keluarga dan kelompok, itulah pendidikan dan asuh anak. Untuk itu, waktu anak bisa sesuatu, jangan anggap hal yang wajar, namun memuji “oh bagus, bisa ya” “anak ya sudah bisa sendiri ya”. Bukan hanya dipuji oleh guru, namun anak puji oleh anak juga, kegembiraan setelah bisa, menjadi banyak lagi.

Pada waktu anak bisa. Dan anak bilang “Bu, lihat!”. Harus memuji “Secara detail oh bisa ●● ya”. Dengan begitu anak dirasakan disayangi. Dengan menciptakan suasana keluarga yang hangat seperti itu, menjadi anak yang percaya selalu dilindungi oleh keluarga, dan bisa mengatasi kesulitan, pada masa yang akan datang. Kita ingin mawas diri, sebenarnya bisa melakukan sesuatu itu bukan hal yang wajar.



人間について考える Memikirkan mengenai manusia

日蓮正宗の御僧侶であられる笠松介道さんをお願いして毎月お感じになっておられることを書いていただくことになりました。仏教の御僧侶ではありますが、インドネシアには「神への信仰（宗教は違って同じものを信じている）」という考え方があります。正しい考え方は万国共通であると思います。このシリーズがインドネシアの発展のための一助になればと思います。

Dengan meminta bapak Kasamatsu Kaidoo seorang biksu dari Nichiren Shooshuu, menulis apa yang dipikirkan olehnya pada setiap bulan. Walaupun beliau biksu agama Budha, namun di Indonesia ada filsafat "Ketuhanan yang maha esa (walaupun agamanya berbeda tapi apa yang dipercaya hanya satu)". Saya berpikir kalau pikiran yang benar adalah universal. Saya berharap serial ini menjadi suatu sumbangan demi kemajuan Indonesia.

人間の基本 64

今年のノーベル物理学賞を授与された真鍋氏が言うには「人間は好奇心を持つ事が大切である。」と語っていた。この「好奇心」と言う『心』は、幼子が必ず抱く心の状態である事は明白である。私は氏の研究内容より、氏のこの発言に強く感動を覚えた。齢90才の研究者が、未だに『幼子の心』を抱き続けているのである。

この「好奇心」と云う『心』は心・意・情の3種の中の『意』に属するものであり、当然生まれた時から所持している『悲喜の心』と云う『不変の心』に基づいて、幼子が抱く心の状態である事を忘れてはならない。つまり、「興味」と『好奇心』には天地雲泥の差がある。恐らく現代社会に生きている大人達が抱く「好奇心」＝「興味」程度にしか捉えていない人が大半であろう。

その理由とは、現代人の多くは『情』と言う『変化の心』でしか『意』と言う『考える心』を使えなくなっているからである。私達を取り巻く「環境」は常に変化が激しく、その変化に順応し易くする為にその様になったのかも知れない。だがそこには大きな落とし穴が存在している。それは全てが『結果次第』で対応を考えると云う対処方法としか取れなくなるのである。これを日本語では『後手に回る』と言い、諺では『泥棒を捕まえてから縄を結う』とも言う。

真鍋氏は地球温暖化に対する警鐘を60年代から唱えてきたと言う。その事が意味するものは『原因』の究明である。それは私達現代人が考える所の、出された『結果』に対する『原因』ではなく、先に『結果』を予想した上での『原因』の究明なのである。私達を取り巻く全ての環境を『森羅万象』と言うが、この森羅万象は偶然に起こるものではなく、全てに於いて必ず『原因』が存在しているのだと仏教では説いている。

それが仏教で言う『因果律』と呼ばれるものである。そして私達の環境は私達人間が創っているとも説いているのである。真鍋氏が示した地球温暖化は大量の二酸化炭素の放出に依るものである事は氏の提言で世界中の誰もが知っている。反対にどうすれば二酸化炭素を減らせるのかも同様に知っている。植物の光合成は子供でも知っている筈だ。

それでも二酸化炭素を大量に放出し続ける米国や中国は、単に経済力を高めると言う為だけの目的で現実を顧みる事をせずにいる。私は個人として第3国を非難する意思はないが、その時だけ自分や自国の利益が増やせれば人類の未来がどうなろうとも構わないと言う思考には一宗教家としては大いに失望する。

その様な事よりも、現代人が見失っている『人間の本質』の根源とは、一人一人が自分の『心』の状態を自らが見直さなければならぬ時に来ている事を自覚しなければならぬと確信するものである。今現在に於いて西側諸国で唱え続けられている「民主主義」や、中国やロシアが唱える共産主義などは、その本質に於いては単に覇権主義に基づいた主張にしか過ぎず、結果論に基づいた論法でしかないと感じている。

やはり人間は未来に於ける『結果』を予測して、その『原因』を然るべきモノとするべき経験に基づく「知恵」を有していることを忘れてはならないのである。その為に必要不可欠なのが『不変の心』なのである。結果主義は『可変の心』が生み出すものである事を決して忘れないで欲しい。どちらの『心』で『意』と言う考える心が使えんかは皆さん次第なのである。



Dasar manusia 64

Bapak Manabe yang mendapatkan hadiah Nobel bidang fisika tahun ini, mengatakan “Namanya manusia yang penting mempunyai rasa penasaran.” “Hati” yang dinamakan “penasaran” ini, yang jelas kondisi hati yang pasti dimiliki oleh anak kecil. Saya sendiri terkesan pada kata ini, daripada isi penelitian beliau. Beliau adalah peneliti usia 90, namun masih tetap memiliki “Hati anak kecil”.

“Hati” yang dinamakan “penasaran” ini, yang termasuk “Perasaan” di antara tiga macam yaitu hati, perasaan dan emosi. Dan tentu saja berdasarkan “Hati abadi” bernama “Hati sedih gembira” yang dimiliki sejak lahir. Maka jangan lupa bahwa kondisi hati yang dimiliki oleh anak kecil. Maksudnya di antara “tertarik” dan “Penasaran”, sangat berbeda seperti langit dan bumi. Mungkin kebanyakan orang dewasa yang hidup di zaman modern ini, anggap “penasaran” = “tertarik”.

Kenapa demikian? Karena kebanyakan orang modern hanya berdasarkan “Hati berubah” yang dinamakan “Emosi” saja, bisa menggunakan “Hati berpikir” yang dinamakan “Perasaan”. “Lingkungan” yang di sekitar kita, selalu berubah terus, dan demi muda diadaptasi pada perubahan tersebut, jangan-jangan menjadi seperti itu. Akan tetapi di situ berada jebakan yang sangat besar. Iya adalah semua hal ditangani sebagai cara mengatasi seperti memikirkan cara mengatasi dengan “Tergantung akibat”. Hal ini kalau dengan bahasa Jepang disebut “Mengatasinya tertunda” dan kalau pribahasa mengatakan “Setelah tangkap pencuri baru ikat dengan tali.”

Bapak Manabe, katanya telah mengawasi mengenai panas bumi sejak tahun 60-an. Hal tersebut maksudnya menuntut “Penyebab”. Itu maksudnya bukan “Penyebab” terhadap “Akibat” yang dikeluarkan berdasarkan pikiran kami manusia moderen, namun menuntut “Penyebab” dengan menduga “Akibat” terlebih dahulu. Lingkungan yang di sekitar kita semua, disebut “Fenomena segala alam”, namun fenomena segala alam terjadi secara kebetulan, namun terhadap satu-persatu fenomena pasti ada “Penyebab”. Kalau di ajaran Budha dijelaskan demikian.

Itulah yang disebut “Hukum Sebab Akibat” yang dikatakan dalam ajaran Budha. Dan dijelaskan pula, bahwa lingkungan kita, semuanya diciptakan oleh kita manusia. Fenomena panas bumi yang ditunjuk oleh bapak Manabe, diketahui oleh orang-orang seluruh dunia bahwa yang disebabkan perbanyak CO₂, karena adanya penunjuk oleh bapak Manabe. Diketahui juga, secara terbalik, bagaimana caranya mengurangi CO₂. Mengenai sistem fotosintesis, mestinya anak pun sudah tahu.

Akan tetapi negara Amerika dan China yang terus-menerus melepaskan CO₂ secara besar-besaran, dengan hanya tujuan pertumbuhan perekonomian, pura-pura tidak melihat kenyataan. Secara pribadi, saya tidak mau menyalahkan negara ke-tiga, namun terhadap cara berpikir bahwa pada saat itu saja jika bisa menambah keuntungan untuk diri-sendiri atau negara sendiri saja, tidak usah peduli masa depan umat manusia, sangat merasa kecewa sebagai salah satu pakar agama.

Daripada hal seperti itu, hal pokok dari “Dasar manusia” yang telah dilupakan oleh manusia modern adalah meyakinkan harus menyadari hal yang telah datang waktu untuk memawas diri kondisi “Hati” diri-sendiri oleh masing-masing. Saya rasakan “Demokrasi” yang dibicarakan oleh negara-negara Barat, atau “Sosialisme” yang dibicarakan oleh China dan Rusia zaman sekarang ini, pada dasarnya hanya bersikeras berdasarkan kedaulatan saja, dan hanya teori yang berdasarkan hukum teori saja.

Bagaimana pun kalau manusia, jangan lupa kita memiliki “kebijaksanaan” yang berdasarkan pengalaman bahwa dengan meramalkan “Akibat” pada masa depan, dan memastikan “Sebab”. Dan untuk itu, hal yang diperlukan adalah “Hati abadi (tidak berubah)”. Tolong jangan lupa bahwa kalau prinsip akibat, adalah dilahirkan oleh “Hati yang berubah”. Apakah bisa menggunakan hati berpikir yang dinamakan “Rasa” dengan “Hati” yang mana atau tidak, tergantung anda sendiri.

小林志郎先生の特別授業 Kuliah khusus Prof. Shiro Kobayashi

東京芸術大学等で教鞭を取られてきた小林志郎先生 (drama-theatre.world.coocan.jp)。芸術そして教育について素晴らしいお考えや経験をお持ちです。先生の素晴らしい授業にご期待ください。Prof. Shiro Kobayashi yang telah mengajar di Universitas Seni Tokyo dll. (drama-theatre.world.coocan.jp) Berlau mempunyai pikiran dan pengalaman luar biasa mengenai pendidikan dan kesenian. Mohon menantikan kuliah istimewa.

小林志郎：東京芸術大学名誉教授・元副学長。有明教育芸術短期大学終身名誉学長。高等教育におけるパフォーマンス・アート（演劇・舞踊・音楽）教育のフィロソフィの構築とその実現に尽力。指導者育成のために「演劇教育研究ゼミ」を一般に公開。演劇教育協議会「コトドラマ」代表。

Shiro Kobayashi: Prof. kehormatan Universitas Seni Tokyo / mantan wakil rektor. Rektor kehormatan seumur hidup dari Universitas Pendek Pendidikan dan Seni Ariake. Sedang berusaha untuk mewujudkan mengkonstruksi filosofi pendidikan performing arts (drama / tari / musik) di perguruan tinggi. Umumkan "seminar penelitian pendidikan drama" demi membina pemimpin. Ketua umum "KOTODORAMA" confrence pendidikan drama.



世阿弥「老人」

『風姿花伝』という能楽の名著は、一般の人に読んでもらうために書かれたテキストではなかったと書きました。劇場や博物館のように一般の人に芸・技術・知式・感性を公開するパブリックな教育に提供された書物ではなく、閉じられたファミリーや仲間や後継者のために書かれた書物だったと説明しました。ところが私の文章を読んだ友人が、「『風姿花伝』はまさに秘伝書です。金春流の宗家が父から子どもへと代々伝え、ライバル等に見せることを禁じた book of secrets でした。約半分が1402年までに書かれてましたが、全編が完成するまで20年近くかかりました。1909年に吉田東伍（歴史地理学者）が『風姿花伝』の存在を発見し、学会に発表しました。それまでだれもこの本の存在を知りませんでした。実に507年間、この本は金春流の宗家の家族集団のなかで読まれ、解釈され、受け継がれてきたのです。」とインドネシアの青年たちに正しく伝えてほしいと忠告を受けました。

さて『風姿花伝』という能楽のカリキュラム論書は、幼・少・中・高・大学と大学院から生涯教育までの長いスパンを網羅しています。

- 1期 七歳（幼年期）
- 2期 十二三より（少年前期）
- 3期 十七八より（少年後期）
- 4期 二十四五（青年期）
- 5期 三十四五（壮年前期）
- 6期 四十四五（壮年後期）
- 7期 五十有余（老年期）

と世阿弥は学習過程を区分しています。

今回のテーマは、最終章である7期「老年期（五十有余）」の学習についてです。世阿弥の研究者は、世阿弥が説く life-long education の中心思想は「何らかを失う、衰えの7つの段階であるともいえます。少年の愛らしさが消え、青年の若さが消え、壮年の体力が消える。何かを失いながら人は、その人生を辿っていきます。」と書いています。至言です。

私は今、85歳になり、老人の真っ最中です。老人とは、速く走れない、長時間走れない、高いところから飛び降りられない、重いものを運べない、90分の講義はこなせるが反復や無駄話が多い、徹夜は月に1、2回が限界、集中力を長く持続すると非常に疲れる、目を覚ましたとき背伸びをすると筋肉が痙攣をおこす、演出をしているとき「ダメ出し」が的確でなくなる、俳優に厳しく熱く語りかけなくなった、電話が億劫になった、読書のスピードが落ちた、論文の本数が減った、ライバルがいなくなった、やりたいことがどんどん貯まる、後輩の研究者や教え子の研究者の活躍を喜ぶが嫉妬することが多くなる、いろいろな刺激が少



なった、持ち時間がややおおくなったので怠け癖がついたなど多種多様な現象が起こります。

私は人生を論じることは好みません。若い頃は、ひたすら上を目指して勉強しました。私の教育や研究に対する哲学は、「まず行動せよ、そして考えよ」でした。これが世阿弥のいう「初心」であるならば、今も初心は変わりません。ただ得手不得手や経済的限界が見えるようになり、行動力が落ちてきましたが、それをサポートしてくれるスタッフがいないことに気づきました。

身体的衰えは壮年期に実感しました。しかし美しいもの、新しいものへの興味関心は昔も今も私の中で正常に機能していると信じていました。また魂の輝や教育・研究へのパッションには、陰りはないものと過信しているかもしれません。今この瞬間、まさにこの文章を書いている最中に信念が少しぐらついていることに気がつきました。文章を書きながら、内面に生息する弱さや暗黒の部分掘り起こしてしまっただけです。そうです、これが、「初心忘るべからず」と唱えながら自分の「輝き」に陰りが現れる気配におののき、意のままにならないすべての現実と抗いながら生きているのが、「七期五十有余（老年期）」の実態だと思います。明鏡止水の心境ではありません。老学者の7期なのです。

「道を極めた学者なら、論文も本もなかなか書けなくなっても、教育研究活動に見所は少なくなったとはいっても、芸と学の花は残るでしょう。」と世阿弥は言います。自分の花は残っているか自分には見えないのがもどかしくも、愉快でなりません。

Zeami “orang tua”

Saya telah menulis bahwa tulisan mulia seni Nou bernama ‘Huu shi ka den (penyampaian Angin, Sosok, Bunga)’, bukan buku pelajaran yang ditulis agar orang umum yang baca. Saya telah menjelaskan bahwa bukan buku yang diserahkan pendidikan umum seperti mengumumkan seni, skill, pengetahuan, perasaan terhadap orang umum, seperti gedung kesenian atau museum, namun buku yang ditulis untuk keluarga, teman-teman serta pewaris yang tertutup. Akan tetap dari teman yang telah baca tulisan saya, mendapatkan pesan, bahwa tolong sampaikan kepada pemuda-pemudi Indonesia secara benar, sebagai berikut:” ‘Huu shi ka den (penyampaian Angin, Sosok, Bunga)’ betul-betul buku rahasia. Bapak Sooke dari aliran Kimpuuryuu menyampaikan generasi ke generasi seperti dari bapak ke anak, dan tidakdibolehkan untuk memperlihatkan kepada saingan. Betul-betul “book of secrets”. Kira-kira separuh ditulis sampai tahun 1402. Namun untuk menyelesaikan semua, butuh waktu hampir 20 tahun. Pada tahun 1909, bapak Yoshida Toogo (ahli sejarah dan geografi) menemukan keberadaan ‘Huu shi ka den (penyampaian Angin, Sosok, Bunga)’ dan diumumkan pada asosiasi studi. Sampai saat itu sama sekali tidak ada yang tahu mengenai keberadaan buku ini. Ternyata selama 507 tahun, buku ini dibaca di dalam kelompok keluarga Sooke dari aliran Kimpuuryuu, dan dipahami dan diwariskan.”

Ngomong-ngomong buku penjelasan kurikulum Nou bernama ‘Huu shi ka den (penyampaian Angin, Sosok, Bunga)’, menyangkut waktu yang lama, seperti TK, SD, SMP, SMA, Universitas, Pascasarjana sampai pendidikan sampai meninggal.

Masa 1	Usia 7 (Masa anak kecil)
Masa 2	Dari usia 12-3 (Masa usia muda depan)
Masa 3	Dari usia 17-8 (Masa usia muda belakang)
Masa 4	Usia 24-5 (Masa remaja)



Masa 5	Usia 34-5 (Masa dewasa depan)
Masa 6	Usia 44-5 (Masa dewasa belakang)
Masa 7	Usia 50 ke atas (Masa orang tua)

Demikian bapak Zeami membagi kurikulum belajar.

Tema kali ini adalah pembelajaran masa 7 “masa orang tua (usia 50 ke atas). Peneliti Zeami menulis bahwa filsafat life-long education yang dijelaskan oleh Zeami adalah “7 tahap penuaan yang hilang sesuatu. Hilang sifat imut-imut sebagai anak muda, hilang sifat muda dari remaja, hilang daya tubuh dari orang dewasa. Namanya orang, menjalankan kehidupan sambil menghilangkan sesuatu.” Kata yang sangat mulia.

Saya sendiri, sekarang menjadi usia 85. Betul-betul tengah-tengah orang tua. Namanya orang tua, sebagai berikut. Tidak bisa lari cepat. Tidak bisa lari waktu yang lama. Tidak bisa lompat turun dari tempat tinggi. Tidak bisa membawa barang berat. Bisa memberi kuliah selama 90 menit, namun banyak yang ulang-ulang dan cerita yang tidak ada gunanya. Kalau bergadang paling bisa 1, 2 kali dalam 1 bulan saja. Jika konsentrasi agak lama, sangat lelah. Pada waktu bangun tidur, jika menggeliat (ngulet), otot punggung merasa sakit. Waktu menjadi sutradara drama, “menunjuk hal yang kurang” menjadi tidak pas. Menjadi tidak ngomong dengan semangat terhadap pemain drama. Malas telepon. Kecepatan untuk baca buku menurun. Jumlah tesis berkurang. Saingan hilang. Apa yang ingin dilakukan semakin numpuk. Senang melihat berhasil pada peneliti junior atau mahasiswa sendiri, namun makin sering iri. Rangsangan macam-macam berkurang. Karena waktu menunggu menjadi agak banyak, maka menjadi malas. Dan sebagainya, muncul fenomena berbagai macam.

Saya tidak suka memasalahkan cara hidup. Pada waktu kecil saya belajar menuju atas terus menerus. Filsafat saya terhadap pendidikan dan penelitian adalah “Yang penting melakukan dulu, lalu berpikir”. Kalau hal ini “hati awal” yang disebut oleh Zeami, sekarang pun hati awal tidak berubah. Hanya menjadi bisa kelihatan apa yang pintar dilakukan dan apa yang tidak pintar dilakukan, lalu bisa melihat paras secara ekonomi. Menjadi daya pelaksanaan, namun saya menyadari bahwa tidak ada staff yang membantu hal tersebut.

Mengenai penuaan secara fisik, saya merasa pada masa dewasa. Akan tetapi kalau rasa tertarik pada hal yang indah, hal yang baru, saya percaya sekarang pun berfungsi secara benar di dalam diri-sendiri. Dan ada kemungkinan saya percaya kelebihan bahwa tentang sinar jiwa dan keseriusan terhadap pendidikan dan penelitian tidak akan hilang. Saat ini, waktu saya menulis tulisan ini, saya menyadari bahwa kepercayaan sedikit bergoyang. Kelihatannya sambil menulis, ternyata membangunkan kelemahan yang hidup di dalam diri-sendiri dan bagian hitam / gelap. Menurut saya, inilah kenyataan “Masa 7 usia 50 ke atas (masa orang tua)” yang mana sambil ucapkan “jangan lupa hati awal” takut kondisi muncul kebut di atas “sinar” sendiri, dan hidup sambil melawan kenyataan yang tidak seimbang keinginan sendiri. Bukan kondisi hati jernih (kaca cermin yang mengkilat seperti pengaliran air berhenti / tenang). Ahli orang tua yang masa ke 7.

Sang Zeami mengatakan “Kalau ahli yang telah mendalami perjalanan hidup, walaupun tidak begitu bisa menulis tesis atau buku, walaupun di atas kegiatan pendidikan dan penelitian hal yang baru menjadi sedikit, pasti tertinggal bunga seni dan pengetahuan.” Namun saya tidak bisa melihat apakah bunga diri-sendiri masih tersisa, namun saya merasa senang sekali.



水物語 Cerita Air

「地球上の問題の大元は水にある」そう語る元映像作家の惣川修さん。その惣川さんにどうしてそのような核心にいたり、今、どのようなことをやっているのかを語っていただきます。

“Sumber masalah bumi ada di air”, bapak Osamu Sokawa, mantan pencipta film mengatakan demikian. Diceritakan kenapa sampai memikirkan begitu, dan sekarang melakukan hal seperti apa.

28 エビデンスの壁

水づくり装置のセットを抱えて、団まりな博士と一緒に訪れた某大学は日本で唯一のバイオ専門の大学でした。お相手の農学博士とまりなさんは親しい関係の様子で、私が持参した水づくりセットをすぐに研究室のシンクに接続して通過水を口にされ、これはおいしいと言って湯沸かしポットに入れられました。

お湯が沸くと、教授はいそいそとコーヒーをドロップして一くち口に「これはいい、私は毎日何度も入れるので、これはありがたい」と私たちにも出してくれました。一気に和気あいの雰囲気になり、持参した3つのレポートの説明を、時々まりなさんが助言を入れられました。最後まで興味深げに聞いてくれました。聞き終わると、助教授の方を呼ばれ、概略を話して3つのレポートを渡して、実験計画を立てるように指示されました。

私は、“良かった！これで科学的にも認められるエビデンスが出来る”と安堵して、まりなさんに深く感謝しました。その後、蕎麦屋で昼食をご一緒しながら、私は少しのお酒ですっかりいい気持ちになりましたが、まりなさんは冷静でした。

それから3か月目に「どうも、仰られる様な結果が出ないようです」との電話が教授から直接掛かってきましたので、担当の助教授の方に代わって貰って実験の方法を詳しく聞きました。お話を伺うと、何と、「純水に自然成分を加えた人工自然水を作って水づくりを通過させ、硝酸体窒素を過剰に入れて析出するかを見たが、変化が見られなかった」というのです。

私は“自然には純水というものはない。必ず様々なミネラル成分が溶け込んでいて、主要でない成分などが触媒として作用して、析出反応は起きるのですから、そちらの水道水か井戸水でやってみてくれませんか”ということをお願ひしました。しかし、水道水や井戸水などでは普遍性が担保されないの科学的には認められないというのです。“実際の現場は純水など使いませんから”と食い下がりましたが、「では、それを考慮して別の実験方法を考えてみましょう」と電話は切られました。

そのことをすぐにまりなさんに報告しましたら「やっぱりね」という反応でした。その2か月後、教授から封筒が届き、当研究所ではご依頼の実験は続けられないという内容が丁寧に書かれていました。その手紙のコピーをまりなさんにメールで送って電話をしましたら「あそこでダメなら、日本のどこにもないね」という反応でした。研究費を出して頼んでいるではありませんから、それ以上どうしようもありません。

次にまりなさんのご自宅へお伺ひした節、がっかりしている私を「我慢、我慢、マーグリズなんか30年も認められなかったんだから」と励ましてくれました。アン・マーグリズは「性の起源」でアメリカ国家科学賞を受賞するまで、30年以上孤独な研究をした、まりなさんの親しい生物学者です。

私が「僕は学者になろうとは思っていません。農業、畜産の現場と人間の体を戻したいと思ってやってるだけです」と言う「それでいいのよ、ともかく3000例を集めて記録しなさい。そしたら、向こうが寄ってくるから」と叱咤されました。

それ以降は、起こったことを記録することと、水の判定はPH・EC・ORP・さび釘テスト・名水分析・そして共鳴磁場分析、さらには抗菌力テストを行うことを続けています。次回からは、水づくりの水で起こった様々な事例をご紹介します。



28 Hambatan evidence

Dengan membawa set alat “Mizutsukuri (Cipta Air)”, bersama prof. Marina Dan, kunjungi suatu universitas. Universitas tersebut adalah universitas khusus bio satu-satunya di Jepang. Kelihatannya Ibu Marina dan prof. ilmu pertanian yang kita ketemu, hubungannya akrab. Dia langsung setting set alat “Mizutsukuri (Cipta Air)” di air kerang yang ada di ruang penelitian. Dan langsung minum air yang diolah. Dengan mengatakan “oh ini enak”, dan memasuki pot pemanas air.

Begitu mendidih air, Prof. langsung membuat kopi, dan minum satu teguk. “Oh ini bagus. Karena saya sering minum kopi dalam satu hari, maka saya merasa sangat terima kasih”. Prof. menyajikan kopi kepada kami juga. Langsung suasananya menjadi enak. Dan mengajukan 3 macam laporan dan menjelaskannya. Ibu Marina kadang-kadang membantu saya. Beliau mendengar serius sampai selesai. Begitu selesai dengar, beliau memanggil staff, lalu menceritakan garis besar, dan sambil memberi 3 macam laporan, suruh membuat rencana percobaan.

Saya menjadi lega “waduh bagus! Dengan begini bisa dapat evidence yang dapat diakui secara ilmiah juga”. Dan saya ucapkan terima kasih sedalam-dalamnya kepada Ibu Marina. Setelah itu kita makan siang di kedai Soba. Sambil makan saya menjadi merasa enak dengan sedikit minum Sake. Namun Ibu Marina tetap tenang.

3 bulan kemudian karena ada telepon dari Prof. bahwa “Kelihatannya tidak bisa dapat hasil yang diinginkan”. Maka saya ganti bicara sama staff yang menangani penelitian, dan dengar cara penelitian dengan teliti. Katanya ternyata “Dengan membuat air alam buatan yang mana dengan air murni ditambah zat alam, lalu melewati ‘Mizu Tsukuri (Cipta Air)’, kemudian memasuki nitrate nitrogen agak banyak, dan melihat ada fenomena deposisi atau tidak. Namun tidak ada perubahan”.

Saya bilang dan minta “Di alam tidak ada namanya air murni. Pasti terlarut berbagai macam mineral, dan zat-zat yang bukan utama menjadi dan beraktivitas sebagai katalisis, lalu baru terjadi reaksi deposisi. Maka bisa mencoba lagi dengan menggunakan air PAM atau air sumur yang ada di situ?” Akan tetapi katanya kalau dengan air PAM atau air sumur, tidak bisa memastikan kondisi keberadaan yang abadi, maka secara ilmiah tidak boleh melakukan dengan air tersebut. Saya ngotot lagi bahwa “Kalau kondisi kenyataan, tidak menggunakan air murni”, tapi dengan kata “Kalau begitu, dengan menimbang hal tersebut, memikirkan cara penelitian yang lain”, diputus telepon.

Hal tersebut saya langsung melaporkan ke Ibu Marina. Reaksinya “ternyata begitu ya (sesuai dugaan saya)”. 2 bulan kemudian, datang surat dari Prof. Isinya kalau di lembaga penelitian saya, tidak bisa dilanjutkan penelitian dengan cara yang diminta, secara halus. Setelah saya mengirim foto copy surat tersebut ke Ibu Marina, dan menelepon. Reaksinya “Kalau di situ tidak bisa, berarti kalau di dalam Jepang tidak ada tempat yang bisa ya”. Bukan berarti kita minta dengan mengeluarkan biaya penelitian, maka apa boleh buat.

Setelah itu, waktu saya kunjungi ke rumah Ibu Marina, dia memberi semangat pada saya yang agak kecewa “Sabar, sabar, kalau si Margulis, salama 30 tahun tidak diakui”. Lynn Margulis adalah ahli biologi yang akrab dengan Ibu Marina yang melanjutkan penelitian dengan sendiri selama 30 tahun lebih sampai menerima hadiah ilmu nasional Amerika dengan “Sumber Sex”.

Begitu saya ngomong “Saya bukan ingin menjadi ilmuwan. Hanya ingin kembalikan ke kondisi alam atas kondisi pertanian dan perikanan, serta tubuh manusia saja.” Ibu katakan “Dengan begitu boleh. Bagaimana pun mengumpulkan contoh sebanyak 3000 dan mencatatnya. Dengan begitu dari sana akan mendekati”. Ibu memberi semangat seperti itu.

Setelah itu, saya melanjutkan terus, mencatat apa yang terjadi, dan untuk mengukur air dengan cara PH, EC, ORP, tes yang menggunakan paku berkarat, analisa air unggul dan magnetic resonance analysis, ditambah lagi test daya anti bakteri. Selanjutnya saya mengenalkan contoh-contoh berbagai macam yang terjadi di atas air “Mizu Tsukuri (Cipta Air)”.

**実践トヨタ流モノづくり Praktek Memproduksi dengan cara TOYOTA**

(株)平山の平山社長のご好意により、トヨタ流のモノづくりに関する本の内容を掲載することになりました。
トヨタ流のモノづくりを学び、みなさんの工場が更に発展することを願っています。

Dengan baik hati dari Bapak Hirayama selaku presiden direktur HIRAYAMA,
kami bisa mengenalkan isi buku yang menjelaskan memproduksi cara TOYOTA.

Kami berharap dengan mempelajari buku memproduksi cara TOYOTA dan pabrik anda lebih maju lagi.

(株)平山の詳しい情報につきましては下のホームページをご覧ください。

Mengenai informasi lebih lanjut HIRAYAMA silahkan mengunjungi website

<http://www.hirayamastaff.co.jp/index.html>

運搬の原則と効率 (12)**(2) 効率の良い運搬****⑤ ハイヤー方式 1**

お客様からの依頼があって目的地に向かうハイヤーとまったく同じで、後工程から運搬指示の要請が入ると、前もって取り決めされている個数を運ぶ定量不定期運搬である。

順序引きとの違いをトヨタ流に解釈すると、順序引きは多品種を1個、あるいは、1セット単位で引き取る超多回運搬。ハイヤー方式は限定した品物、例えば、塗装前の自動車のボディを構成する板金部品は同一車種ならばグレードに関係なく同じなので、一度に何個と品種と個数を限定してロットで運搬を実施する。

特徴は、情報伝達的手段にかんばんでなく、みずすましの時に紹介したアンドンを主に使用する。後工程で部品Bの要求が出ると、その情報は前工程に伝わり、荷役担当者がBを後工程の指定する位置に運び、帰りは空になったパレットやコンテナを持ち帰る。所定の位置に届け終えて区切りとなることからハイヤー方式と名付けられた。

ハイヤーとタクシーの違いは、タクシーはお客様の求めに応じて目的地まで走り、所定の料金を受け取る。不特定多数のお客様が都合の良い場所で、都合の良い時に乗り降りでき、運搬形態に例えると不定時不定量となる。一方、ハイヤーはお客様の求めに応じて所定の場所まで派遣する運転手付きの乗用車で、派遣先の指示、つまり、定められた範囲で発着点から発着点に戻るのが基本となる定量不定期運搬である。

モノづくりは平準化、平均化しなければ成り立たず、その手段として小ロット化、1個流し、多回仕掛け、多回運搬などが採用される。いきなりロット運搬も効率の良い運搬形態の1つであると説明すると、運搬は一度にできるだけ多くを運ぶ大ロットが最も効率的だと受け止められるかもしれないが、勘違いだけはしないでほしい。

ジャスト・イン・タイムは小ロット化、1個流し、多回仕掛け、多回運搬を基本としてはいるが、ロット生産、ロット流しを否定しているわけではない。市場の好みが多岐に及ぶ時代に、しかも、要求量は消費者の都合でつねに増減する。それらの全てに十分にえられるモノづくりなどありえず、ただ理想に近づくための努力は怠ってはならない。

目的は必要なものだけをつくる。換言すると、不必要な在庫を持たない工夫が大事で、そのための手段でこれが1番といえるものなど何もない。職場の状況、つくる品物の大小、種類や数によって変動する状況の中で何が最も効果が良いのか、方策を探ればよいのである。ロット生産であっても、運搬の工夫をすれば在庫は減る。長年のモノづくりで積み重ねてきた固定観念を捨てることの大切さを説いている思想がジャスト・イン・タイム生産である。

日刊工業新聞社、竹内俊夫著、(株)平山監修、
「実践トヨタ流モノづくり 図解で自動車生産世界の極意を学ぶ」より



Prinsip pemindahan dan efisiensi 12

(2) Pemindahan efisiensi yang baik

⑤ Sistem taksi panggilan 1

Persis sama dengan taksi panggilan yang sesuai permintaan customer menuju tempat tujuan. Begitu masuk permintaan untuk memindahkan barang dari proses belakang, membawa sejumlah yang telah ditentukan. Memindahkan jumlah tetap waktu tidak tetap.

Jika menanggapi perbedaan antara Jyunjyo biki (menarik sesuai urutan) secara TOYOTA, kalau Jyunjyo biki, adalah pemindahan super berkali-kali, yang mana menerima (menarik) banyak jenis dengan jumlah 1 pice atau 1 set. Kalau sistem taksi panggilan melaksanakan pemindahan dengan jumlah lot terhadap barang yang telah ditentukan. Misalnya kalau parts plat dari bagian body mobil, kalau jenis mobilnya sama, barangnya sama tidak tergantung grade, maka menentukan jumlah untuk sekali pemindahan seperti jenis barang dan jumlah barang.

Kekhususannya, untuk cara menyampaikan informasi, bukan menggunakan KAMBAN, namun menggunakan ANDON yang mana telah dijelaskan pada bagian "kecebong". Begitu keluar permintaan parts B di proses belakang, informasi tersebut disampaikan pada proses depan, petugas memindahkan barang membawa B ke tempat yang telah ditunjuk oleh bagian belakang, dan pulanginya membawa palet atau countainer yang telah menjadi kosong. Begitu selesai membawa pada tempat yang telah ditentukan dinyatakan selesai. Maka dinamakan sistem taksi panggilan.

Perbedaan taksi panggilan dan taksi biasa, kalau taksi biasa, tergantung permintaan customer berjalan sampai tempat tujuan, dan menerima ongkos yang sesuai. Customer tidak tertentu, di tempat yang susukanya, waktu sesukanya bisa naik turun, maka kalau diibaratkan bentuk pemindahan, menjadi waktu tidak tetap, jumlah tidak tetap. Sedangkan kalau taksi panggilan, boleh dikatakan mobil biasa bersama sopir, yang mengantarkan sampai tempat telah ditentukan, dan pada dasarnya di dalam wilayah ditentukan, kembali dari tempat berangkat ke tempat berangkat lagi. Boleh dikatakan pemindahan jumlah tetap waktu tidak tetap.

Namanya produksi, tidak bisa berjalan kalau tidak di ratakan kapasitas produksi (HEIJYUNKA), dan ratakan jumlah produksi (HEIKINKA), dan sebagai cara melakukannya, digunakan lot dijadikan kecil, IKKO NAGASHI (mengalirkan satu-persatu), setting berkali-kali, memindahkan berkali-kali. Jika tiba-tiba menjelaskan bahwa memindahkan berdasarkan lot juga, salah satu bentuk pemindahan yang efisien, mungkin dianggap lot besar yang memindahkan jumlah barang sebanyak mungkin itu paling efisien. Namun tolong jangan salah mengerti.

Kalau Just In Time berdasarkan lot dijadikan kecil, IKKO NAGASHI (mengalirkan satu-persatu), setting berkali-kali, memindahkan berkali-kali, namun bukan berarti menyangkal produksi per-lot, memindahkan per-lot. Dalam zaman yang permintaan pasar beranekaragam, di tambah lagi, kalau jumlah yang diminta selalu naik turun tergantung kondisi customer. Tidak mungkin keadaan produksi yang bisa jawab penuh terhadap kondisi tersebut, namun kita tidak boleh berhenti usaha untuk mendekati kondisi idealnya.

Tujuannya hanya memproduksi yang diperlukan saja. Dengan kata lain, yang penting suatu rekayasa yang tidak mempunyai stock yang tidak diperlukan, dan dengan cara untuk itu, sama sekali tidak ada yang disebut cara inilah nomor satu. Dalam kondisi yang berubah tergantung kondisi tempat kerja, besar kecilnya produk yang akan diproduksi, jenis dan jumlah, apa yang paling efisien, kita cukup mencari caranya. Walaupun produksi berdasarkan lot, kalau direkayasa cara pemindahan, stock akan berkurang. Suatu filsafat yang menjelaskan betapa pentingnya membuang pikiran kaku yang telah menumpuk dalam produksi bertahun-tahun, itulah produksi Just In Time.

Dari buku "Praktek Memproduksi cara TOYOTA
-Mari mempelajari jurus nomor satu memproduksi otomotif
melalui penjelasan gambar -"

Perusahaan koran harian Industri, penulis: Toshio Takeuchi, disusun: HIRAYAMA



2021 年 11 月のセミナーのご案内 Info Seminar bulan November 2021

- 22 日 (月) Tanggal 22 (Senin) [IDR]
 保全およびエンジニアリングのための問題解決実習 (PSM)
 Practical Problem Solving for Maintenance and Engineer
 QC7 つ道具を用いて工業機械の故障/問題に対処し、三現主義を元に機械の故障の分析を行います。
 Mengatasi kerusakan/masalah pada mesin industri dengan menggunakan QC 7 Tools, dan melakukan analisa kerusakan mesin dengan menggunakan metode 3-gen.
- 23 日 (火) Tanggal 23 (Selasa) [OKU]
 トヨタ式改善 (KZN) Mari kita KAIZEN berdasarkan Toyota Way
 トヨタの考え方を基本にした改善および問題の解決の仕方を学びます。
 Mempelajari KAIZEN dan cara memecahkan masalah berdasarkan filsafat Toyota Way.
- ◆ 24 日 (水) 25 日 (木) Tanggal 24 (Rabu) & 25 (Kamis) [OKU]
 人の扱い方 (JR) Cara menata hubungan manusia
 1950 年から導入され、現在まで活用されている素晴らしい研修です。
 Training yang sangat bagus, yang terus-menerus diterapkan sejak 1950.
- 26 日 (金) Tanggal 26 (Jumat) [OKU]
 工場の 5 S (5S) 5S untuk Pabrik
 様々な事例から、5 S の大切さ、5 S の推進の仕方を学びます。
 Mempelajari pentingnya 5S dan cara menjalankan 5S, melalui berbagai contoh.

上記セミナーの具体的な内容は直接 PT. ISSI にお問い合わせください。

Informasi selanjutnya mengenai seminar di atas ini, tolong menghubungi PT. ISSI

全てインドネシア語によるセミナーです。Semua seminar menggunakan bahasa Indonesia.

参加者には E マガジン「こむにかし I J」の全てのバックナンバーが入った CD-ROM をお渡ししています。

Peserta seminar mendapatkan CD-ROM yang berisi E-Magazine “Komunikasi IJ” semua edisi selama ini.

講師 / Trainer : 1. Oku Nobuyuki [OKU]
 2. Indro Agung Handoko [IDR]

- ◇ Investasi 0.5 hari training : Rp.650.000,- / orang 半日間セミナーの参加費 : Rp.650.000,- / 名
 - Investasi 1 hari training : Rp.1.280.000,- / orang 一日間セミナーの参加費 : Rp.1.280.000,- / 名
 - ◆ Investasi 2 hari training : Rp.2.380.000,- / orang 二日間セミナーの参加費 : Rp.2.380.000,- / 名
- Biaya bahan training : Rp.50.000,-/orang 教材費 : 5 万ルピア / 人

*Belum termasuk PPh 23

Formulir Pendaftaran Training PT. ISSI

Saya mendaftarkan diri pada Seminar : PSM KZN JR 5S

Nama Lengkap Peserta (e-mail / HP) : _____

Nama Lengkap Pendaftar * (e-mail / HP): _____

*Pendaftar : Penanggungjawab perusahaan

Nama Perusahaan (Jenis usaha) : _____

No. Tel. Kantor : _____

No. Fax. Kantor : _____

Alamat Kantor : _____

Cara pembayaran : Transfer Cash

Nomor rekening : PT. ISSI Bank BCA KCP Lippo Cikarang 5220302085



2021年12月のセミナーのご案内 Info Seminar bulan Desember 2021

- 15日(水) Tanggal 15 (Rabu)
 保安全管理 (MM) Maintenance Management [IDR]
 保安全管理から在庫管理そしてコスト管理に至るまでの一連の管理方法を学びます。
 Mempelajari pembuatan Maintenance System, Inventory Spare Parts sampai dengan Cost Manajemen.
- ☆ 20日(月) Tanggal 20 (Senin)
 セーフティドライブ (SD) Safety Drive [OKU]
 ただ知らなかった。だから事故が起きてしまった。そう言ったことを防ぐためのセミナーです。
 Training untuk mencegah kecelakaan, terjadi karena hanya tidak tahu saja.
- 21日(火) Tanggal 21 (Selasa)
 QCからQAへ (QA) Dari QC ke QA [OKU]
 品質保証に関する基本的な考え方を学びます。
 Mempelajari hal-hal dasar, mengenai jaminan mutu (Quality Assurance).
- ◆ 22日(水) 23日(木) Tanggal 22 (Rabu) & 23 (Kamis)
 改善の仕方 (JM) Cara melakukan KAIZEN [OKU]
 1950年から導入され、現在まで活用されている素晴らしい研修です。
 Training yang sangat bagus, yang terus-menerus diterapkan sejak 1950.

上記セミナーの具体的な内容は直接 PT. ISSI にお問い合わせください。
 Informasi selanjutnya mengenai seminar di atas ini, tolong hubungi PT. ISSI
 全てインドネシア語によるセミナーです。Semua seminar menggunakan bahasa Indonesia.
 参加者には E マガジン「こむにかし I J」の全てのバックナンバーが入った CD-ROM をお渡し
 しています。
 Peserta seminar mendapatkan CD-ROM yang berisi E-Magazine “Komunikasi IJ” semua edisi selama ini.

講師 / Trainer : 1. Oku Nobuyuki [OKU]
 2. Indro Agung Handoko [IDR]

- ☆ Investasi 0.5 hari training : Rp.650.000,- / orang 半日間セミナーの参加費 : Rp.650.000,- / 名
 - Investasi 1 hari training : Rp.1.280.000,- / orang 一日間セミナーの参加費 : Rp.1.280.000,- / 名
 - ◆ Investasi 2 hari training : Rp.2.380.000,- / orang 二日間セミナーの参加費 : Rp.2.380.000,- / 名
- Biaya bahan training : Rp.50.000,-/orang 教材費 : 5 万ルピア / 人

*Belum termasuk PPh 23

Formulir Pendaftaran Training PT. ISSI

Saya mendaftarkan diri pada Seminar : MM SD QA JM

Nama Lengkap Peserta (e-mail / HP) : _____

Nama Lengkap Pendaftar * (e-mail / HP) : _____

*Pendaftar :Penanggungjawab perusahaan

Nama Perusahaan (Jenis usaha) : _____

No. Tel. Kantor : _____

No. Fax. Kantor : _____

Alamat Kantor : _____

Cara pembayaran : Transfer Cash

Nomor rekening : PT. ISSI Bank BCA KCP Lippo Cikarang 5220302085



ばずる で ばはさ (農業・漁業編)

パズル感覚でインドネシア語を勉強しましょう。

「ばずるでばはさ」では、日本語とインドネシア語との対比が色でわかるようになっています。

パズル 11

Kapal bapak ada di mana?

お父さんの船はどこにありますか？

1. Ladang kami ada di sebelah utara sungai.
ラダン カミ アダ デイ スプ ラウ ヲタ スンガイ。
私共の畑は川の北側にあります。
2. Setelah keluar pintu tol, persimpangan pertama belok kiri, dan persimpangan kedua belok kanan.
ストウハ カルワール ピントウ トーレ ルンパン ガン プルタマ ベ ロック
リ、ダン ベ ルンパン ガン クド ヲア ベ ロック ガン。
高速出口を出てから、最初の交差点を左折して、
二つ目の交差点を右折します。
3. Setelah lewat jembatan, ada di sebelah kiri jalan.
ストウハ レワツ ジュンバ タン、アダ デイ スプ ラウ キリ ジヤン。
橋を渡って、道の左側にあります。
4. Belokan berikutnya belok kiri dulu, baru belok kanan.
ベ ロカン ベ リクツ ニヤ ベ ロック リ トウ ル、バル ベ ロック ガン。
次の曲がり角を左折してから、右折する。
5. Ikutin jalan terus.
イクティン ジヤン トウ ル ス
道なりにいってください。
6. Situ belok kanan. シトゥ ベ ロック ガン。
そこを右に曲がってください。

ピース 1 (方向を示す言葉)

timur	ティムール	東
barat	バラツ	西
selatan	セラタン	南
utara	ウタラ	北
kiri	クリ	左
kanan	カン	右

ピース 2 (動詞)

jalan	ジヤラン	走る、動く
maju	マジュ	進む
terus	トゥルス	そのまま
ikutin		
(mengikuti)	イクティン	従って、沿って
belok	ベ ロック	曲がる
berhenti	ベルハンティ	止まる
nyeberang		
(menyeberangi)	ニユベラング	渡る
pelan-pelan	プラン・プラン	ゆっくり
putar	プータル	回る
tanya	タニヤ	尋ねる

ピース 3 (場所を示す言葉)

kapal	カパー	船
pelabuhan	プラバハン	港
ladang	ラダン	畑
sawah	サワハ	田んぼ
pintu tol	ピントウ トーレ	高速出口
jembatan	ジュンバ タン	橋
halte	ハルテ	停留所
gedung	グドゥン	建物
kantor pos	カントール ポス	郵便局

pos	ポス	郵便
(gedung)		
wali kota	ワリ・コタ	市役所
sekolah	スコラハ	学校
rumah sakit	ルマハ・サキツ	病院
sakit	サキツ	病気
(gedung)		
kelurahan	ケラハン	村役場
mal	モール	モール、ショッピング・センター
bengkel	ベンケル	修理屋
mesjid	メシジツ	モスク
ruko	ルコ	店舗付き住宅
tanah kosong	タハ コソング	空き地
tanah	タハ	土地
kosong	コソング	空の
tikungan	ティガン	カーブ
tanjakan	タンジャカン	上り坂
gang	ガン	小路
lampu merah	ランプ・メラハ	信号
kawasan industri	カワン・インドゥストラ	工業団地
seberang	スベラング	反対側

ピース 4

berikut	ベリクツ	次の
sebelum	スベルム	手前の
setelah	ストウハ	過ぎてから、それから
langsung	ランソング	すぐに
dulu	ドゥル	してから、とりあえず
kami	カミ	私共
pertama	プルタマ	一番目の、第一の



Pelajaran Bahasa Jepang dengan Puzzle (Untuk pertanian / perikanan)

Mari belajar bahasa Jepang, berdasarkan tata bahasa.

Dalam pelajaran ini, karena diwarnai kosakatanya, maka arti kosa katanya langsung bisa dimengerti

Puzzle 11

昨日、器具を洗淨しました。

Kinoo, kigu wo senjyoo shimashita.
Kemarin telah mencuci alat.

- 今朝、予定を変更しました。
Kesa, yotee wo henkoo shimashita.
Tadi pagi, telah ganti schedule.
- 明日、肥料を発注します。
Ashita, hilyoo wo hacchuu shimas.
Besok, pesan pupuk.

- さっき、データをチェックしました。
Sakki, deeta wo chekku shimashita.
Tadi, telah mengecek data.
- 後で、道具を整理します。
Ato de, doogu wo seeli shimas.
Nanti, akan dibereskan alat.
- 今、メールを送信しました。
Ima, meelu wo sooshin shimashita.
Sekarang, telah mengirim mail.

Tulisan latin sesuai bunyi asli bahasa Jepang

Keterangan

- Dalam bahasa Jepang, setelah kata obyek memakai kata を (wo) sebagai kata bantu.
- Dalam bahasa Jepang, Kata obyek di depan kata kerja.
- Dalam bahasa Indonesia, kata yang dibelakang kata kerja tanpa kata keterangan, seperti "di, ke" dsb, biasanya kata obyek.

Peace 1 (yang menjadi obyek)

doogu	道具	alat	keikaku	計画	rencana
kigu	器具	alat (berupa mesin)	yotei	予定	schedule
meelu	メール	mail	yosoku	予測	prediksi
denwa	電話	telepon	deeta	データ	data
tegami	手紙	surat	joofoo	情報	informasi
syolui	書類	dokumen	failu	ファイル	file
nimotsu	荷物	barang	aidia	アイディア	ide
cyuumon	注文	pesanan	teian	提案	ide / usulan
dengon	伝言	pesan (massage)	zailyoo	材料	bahan
messeeji	メッセージ	massage	hilyoo	肥料	pupuk
sukejuulu	スケジュール	jadwal	nooyaku	農薬	insektisida
			kooli	氷	es batu
			ami	網	jaring
			nenlyoo	燃料	bahan bakar



ああ言えば Ngomong begitu

こう言う Ngomong begini

第百八十八課 Pelajaran 188

お疲れ様でした。

Otsukale sama deshita.

Sudah selesai ya.

スダハ スルサイ ヤ。

では、休憩室に戻りましょう。

Dewa, kyuukeeshitsu ni modoli masyoo.

Mari kembali ke ruang istirahat.

マリ クンバリ クルアン イステイラハツ。

はい。

Hai.

Ya.

ヤ。

Tulisan latin sesuai bunyi
asli bahasa Jepang

かいごかんけい かいわ
介護関係の会話です。 Percakapan yang ada kaitan perawatan orang tua.

Info Pustaka PT. ISSI (BJ Press) PT.ISSI (BJ Press) 出版物のご案内

Buku Pembelajaran bahasa 語学教材

**Pelajaran Bahasa Jepang
dengan BJ System**

Bisa memahami baca menulis bahasa Jepang 6 Jilid 全6巻
dengan singkat
短期間で日本語の読み書きが習得できます。 @ Rp. 50.000

**Puzzle de Bahasa
(Untuk pabrik/kantor)**
ばずる de ばはさ (工場事務所編)

Buku percakapan
yang disusun berdasarkan BJ system
BJ システムをベースにした
会話の教科書です。 **2 jilid 全2巻**
@ Rp. 50.000

日本人向けインドネシア語教科書
Buku pelajaran
Bahasa Indonesia
untuk orang Jepang

奥さんの
BJ 式
インドネシア語講座
Pelajaran Bahasa
Indonesia

ばずる de ばはさ
(工場事務所編)
Puzzle de Bahasa
(untuk pabrik / kantor) **@ Rp. 100.000**

Serial Dwi Bahasa Indonesia Jepang 日バイリンガルシリーズ

Kata Kunci dalam Operasi Pabrik 工場運営の キーワード	Dari QC ke QA QC から QA へ	Ngomong begini Ngomong begitu ああ言えば こう言う	Safety Drive	Sekolah di Jepang 日本の学校	Dongeng Miyazawa Kenji (Buku 1) 宮澤賢治 童話集 (第一巻)
---	-----------------------------------	---	--------------	-------------------------------	---

@ Rp. 50.000

松下幸之助 運をひらく言葉
Kata-kata Mutiara Matsushita Konosuke

Rp. 100.000

弊社の書籍はネットショップ「Lazada」からもご購入いただけます。
Pustaka kami bisa didapat melalui internet "Lazada"

- <http://www.lazada.co.id/beli-buku-pembelajaran-pengajaran-bahasa/>

**Serat Centhini チェンティニ古文**

B. MAS CEBOLANG DAN KAWAN-KAWAN MENINGGALKAN LEWEAN, TIBA DI MAJESTA. 8

4. Sejarah Jaka Tingkir 2

Raja berkehendak menambah perwira tamtama, tetapi harus melalui pendadaran dengan menempeleng kepala kerbau hingga remuk.

Ada seseorang dari Kedu Pingit, bernama Dadungawuk. Wajahnya kaku, jelek, dan dia sering menyombongkan kesaktiannya. Dia hendak mengabdikan ke Demak sebagai tamtama. Dia sudah melapor kepada Lurah Tamtama. Dadungawuk ditanya, apakah sanggup dicoba untuk ditusuk. Dia menyanggupinya. Jaka Tingkir mendekatinya serta menusukkan sadak 'gulungan daun sirih' di dada Dadungawuk. Dada pecah dan mati. Perwira tamtama yang ada di depan diperintahkan menusuknya dengan keris. Mayat Dadungawuk luka berat di sekujur tubuhnya.

Hal itu didengar oleh raja. Beliau marah sekali. Jaka Tingkir diusir dari Negara Demak. Jaka Tingkir sangat kecewa mengingat kelakuannya sendiri. Dia berjalan tanpa tujuan, sampailah di Gunung Kendeng. Jaka Tingkir bertemu dengan Ki Ageng Butuh.

Ki Ageng Butuh berkata, "Wajahmu mirip kakak Ki Ageng Pengging almarhum, tetapi engkau lebih tampan dan gagah. Dari mana asalmu?"

Jaka Tingkir menyembah sambil menangis. Semua kejadian yang menimpanya dilaporkan kepada Ki Ageng Butuh. Jaka Tingkir dipeluk, segera dibawa ke dalam rumah, lalu beliau mengundang saudaranya, Ki Ageng Ngerang.

Ki Ageng Ngerang sudah mengetahui maksud undangannya, lalu memeluk Jaka Tingkir. Setelah reda semuanya, Ki Ageng Butuh dan Ki Ageng Ngerang memberikan petunjuk dan petunjuk. Setelah selama tujuh bulan, Jaka Tingkir disuruh kembali ke Demak atau ke Tingkir kembali.

Sampai di sekitar Negara Demak, dia menanyakan kepada perwira tamtama, apakah raja sudah memanggilnya. Pulu hati Jaka Tingkir. Dia pergi dari Demak menuju ke Pengging.

Setiap malam Jaka Tingkir tidur di sebelah letak makam ayahnya. Pada malam keempat, Jaka Tingkir mendengar suara. "Ngger 'Buyung', pergilah ke tenggara. Bila telah sampai di Getasaji, di dekat daerah tersebut ada orang yang terkenal bernama Ki Ageng Buyut Banyubiru. Laksanakanlah, segala perintahnya".

Yang diceritakan beralih tempat.

**B. チェボランとその仲間はレウェアンを出てマジェスタに到着する (8)****4. ジャカ・ティンキルの生い立ち 2**

王は軍の将校を増やそうとした。しかし通過儀礼を行う必要がある。それは水牛の頭を形がなくなるまで殴りつけるというものだ。

クドウ・ピンギットからの一人の男がいた。名前をダドウンガウックという。顔は角ばっていて、良くない。そして彼は常に自分の持っている魔力を誇示していた。彼は軍隊としてデマックに仕えようとしていた。彼はすでにタムタマの村長に報告していた。ダドウンガウックは尋ねられた。刺されることに異論はないか。彼は了解した。ジャカ・ティンキルは近寄りそしてダドウンガウックの胸をシリの葉を丸めたもので刺した。胸が切り裂かれそして死んだ。ダドウンガウックの遺体は身体中が深い傷に覆われていた。

そのことが王の耳に入った。王は非常に怒った。ジャカ・ティンキルはデマック国から追放された。ジャカ・ティンキルは自分が行った行動を非常に悔いた。彼はあてもなく歩いた。ケンデン山に到着した。ジャカ・ティンキルはキ・アゲン・ブトゥと出会った。

キ・アゲン・ブトゥは言う。「あなたの顔は亡くなった兄キ・アゲン・ペンギンに似ている。しかしあなたの方がより端正で力強い顔をしている。あなたの出身はどこですか。」

ジャカ・ティンキルは涙を流しながら手を取り敬意を表した。彼に降りかかった全ての出来事をキ・アゲン・ブトゥに報告した。ジャカ・ティンキルは抱擁を受け、家に招き入られた。そして彼は兄弟であるキ・アゲン・ゲランを呼んだ。

キ・アゲン・ゲランは即座に呼ばれた訳を察した。そしてジャカ・ティンキルを抱擁した。全てが落ち着いてから、キ・アゲン・ブトゥとキ・アゲン・ゲランは助言と指示を与えた。7ヶ月経ったのち、ジャカ・ティンキルはデマックに戻るもしくはティンキルが帰るというものだ。

デマック国周辺に到着し、彼は軍の将校に聞いた。王が呼んだかどうか。ジャカ・ティンキルの心は悲しみを感じた。彼はデマックを離れ、ペンギンに向かった。

毎晩、ジャカ・ティンキルは父の墓の横で寝た。六日目の夜、ジャカ・ティンキルはある声を耳にした。「息子よ、東南へ向かえ。ゲタサジに着いたら、その地域の近くにキ・アゲン・ブユット・バニュビルという有名な人物がいる。その命令をすぐに実行せよ。」

伝えられたものは場所を変えた。

**キ・ハジャール・デワントロ Ki Hadjar Dewantara**

インドネシア教育の父と言われるキ・ハジャール・デワントロの言葉です。
これからの真の教育のあり方を考える上での一つの材料になれば幸いです。

Kata-kata Ki Hadjar Dewantara sebagai bapak pendidikan Indonesia.

Semoga menjadi salah satu bahan untuk memikirkan keberadaan pendidikan sebenarnya untuk masa depan.

Hal Pendidikan 2**II . Pendidikan nasional**

Menurut paham Taman Siswa ialah pendidikan yang beralaskan garis-hidup dari bangsanya (cultureel-national) dan ditunjukkan untuk keperluan perikehidupan (maatschappelijk) yang dapat mengangkat derajat negara dan rakyatnya, agar dapat bekerja bersama-sama dengan bangsa lain untuk kemuliaan segenap manusia diseluruh dunia.

1. Pendidikan budi pekerti harus mempergunakan syarat-syarat yang selaras dengan jiwa kebangsaan menuju kepada kesucian, ketertiban dan kedamaian lahir batin, tidak saja syarat-syarat yang sudah ada dan ternyata baik, melainkan juga syarat-syarat jaman baru yang berfaedah dan sesuai dengan maksud dan tujuan kita.
2. Teristimewa haruslah kita perhatikan pangkal kehidupan kita yang terus hidup dalam kesenian, peradaban, syarat-syarat agama, atau terdapat dalam kitab-kitab cerita (dongeng, mythenen legenden, babad dan lain-lain); semua itu adalah "arsip nasional", dalam mana tersimpan beberapa kekayaan batin dari bangsa kita (geestelijke waarden). Dengan mengetahui segala hal itu niscayalah langkah kita untuk menuju pada jaman baru akan berhasil tetap dan kekal. Karena jaman baru kita jodohkan sebagai "mempelai" jaman yang lalu (Jawa: ngudi-tuwuh).
3. Berdasarkan hal-hal tersebut diatas perlulah anak-anak Taman Siswa kita dekatkan hidupnya kepada perikehidupan rakyat agar supaya mereka tidak hanya memiliki "pengetahuan" saja tentang hidup rakyatnya, akan tetapi juga dapat "mengalaminya" sendiri, dan kemudian tidak hidup berpisah dengan rakyatnya.
4. Maka dari itu seyogyanyalah kita mengutamakan cara "pondoksystem" sebagai alat untuk mempersatukan pengajaran-pengetahuan dengan pengajaran-budipekerti, sistim mana dalam tambo peradaban bangsa kita bukan barang asing (dulu bernama "asrama" sekarang menjelma menjadi "pondok-pesantren").
5. Pengajaran-pengetahuan yang bertujuan mendidik fikiran adalah sebagian dari pendidikan yang terutama dijalankan untuk memperoleh alat-alat penghidupan. Seyogyanyalah pendidikan fikiran ini dibangun setinggi-tingginya, sedalam-dalamnya dan seluas-sulusnya, agar anak-anak dapat mewujudkan perikehidupannya dengan sebaik-baiknya.
6. Pendidikan jasmani (tichamelijke opwoeding) yang pada jaman dulukala juga sudah dikenal orang harus dipentingkan untuk mendatangkan keturunan yang bertubuh kuat.



教育について (2)

II 国家教育

1. タマン・シスワの理解では、世界中の人間の尊厳のため、他の民族と協力できるようにすべく、その民族の生活基準（国家文化）および国家と民衆の水準を引き上げることができる家計に必要なもののために示されるものを基礎とする教育である。
2. 道徳教育は神聖なもの、規律、そして心身の安寧を目指す民族の精神と合致した条件を使用しなければならない。すでにあり、実際良いものである条件のみでなく、我々の意味するところおよび目的に役立ち合致した新たな時代の条件でもある。
3. 特に芸術、文明、宗教的条件もしくは物語（童話、ミトス、伝説、歴史など）の中で生活し続ける我々の生活の基礎に注意を払うべきである。それらのものは全て「国家ファイル」であり、我々民族の精神的な富が保存されているものである。それらのものを理解することは、もちろん確実な永続的な成功となる新たな時代へと向かうための我々の歩みである。なぜなら我々の新たな時代は過去の時代の「花嫁」として縁付けされたものであるからである。
4. 上述の事柄に基づき、我々のタマン・シスワの生徒はその生き方を民衆の生活に近づけなければならない。彼らが民衆の生き方についての「知識」を有するだけでなく、自分で「経験」できるようにするためである。そして後に民衆と離れて生きていけないようになる。
5. そのようなことから、我々は知識教育と道徳教育を一つにするための道具として、外からのものでない、我々の文明の柱の一つであるシステムとしての「ポンドック・システム（全寮制）」（以前は『寮』と呼ばれていて今では『ポンドック・プサントレン』と呼ばれている）を主にする必要がある。
6. 考える教育の目的としての知識教育は生活の糧を得るために行われる教育の一部である。できることならこの考える教育はより高く、より深くそしてより広く構築されるべきである。子供たちがより良い生活を送ることができるように。
7. 人々に知られている以前の時代からの精神教育も強く成長する次の世代を迎えるため重要視しなければならない。

**松下幸之助の言葉 Kata-kata Matsushita Konosuke**

Konosuke Matsushita

Tokoh besar manajemen Jepang. Banyak orang memanggil beliau sebagai "Dewa Manajemen".

Sebelum perang dunia ke II, beliau mendirikan "Matsushita Elektrik" dengan 3 orang (bersama isteri dan adik isteri) saja. Dan sekarang "Matsushita Elektrik" tersebut dikenal sebagai "Panasonic".

Setelah Perang dunia ke II, beliau mendirikan lembaga penelitian PHP (PEACE and HAPPINESS through PROSPERITY) dengan tujuan mencari kebahagiaan manusia dalam segi batiniah.

ものごと
物事がよく見えてくる言葉 6ゆがんだレンズを通せば、
まっすぐな棒でも曲がって見える。あかい
赤色のレンズ越しに見れば、しろ
白い紙でも赤く見えます。どうよう
同様に、私たちの心に先入観やとら
われ、私欲私心があれば、ただ
正しいものでも誤って見えます。お互い折にふれ、ただ
正しくもの
を見ているかどうか省みることが大切です。けんきゅうしょ
PHP 研究所、おえひろし
大江弘 へんちよ
編著 「[松下幸之助] 強運を引き寄せる言葉」より

Kata-kata yang menjadi bisa melihat hal lebih baik 6

Kalau melewati lensa yang bengkok,
walaupun tongkat yang lurus, kelihatannya menjadi bengkok.

Jika melihat melalui lensa merah, walaupun kertas putih kelihatannya menjadi merah. Demikian juga, jika ada pandangan kaku yang masuk sebelumnya, atau terikat sesuatu serta nafsu sendiri hati sendiri (ego), walaupun hal yang benar, kelihatannya menjadi salah. Yang penting, kita saling memawas diri bahwa apakah kita melihat sesuatu dengan benar atau tidak, pada setiap waktu.

Dari buku "[Matsushita Konosuke] kata-kata yang menarik keuntungan besar"
Penulis / Penyusun Ooe Hiroshi, Penerbit PHP Research Institute. Inc.

広告募集のお知らせ Penerimaan Pemasangan Iklan

「こむにかし I J」誌上に掲載する広告を募集しています。詳しくは、PT.ISSI 事務所までお問い合わせください。
Kami sedang menerima pemasangan iklan di "Komunikasi IJ". Informasi selanjutnya silahkan hubungi PT.ISSI.



広告 Iklan



「文化塾」日本語コースのお知らせ

Informasi

Kursus Bahasa Jepang "Bungka Juku"

日本語学校「文化塾」では、
皆様のご参加をお待ちしております。
Kursus Bahasa Jepang "Bungka Juku"
menunggu kehadiran anda.

Dengan BJ System
yang terbaru di dunia.
Begitu selesai level 6,
mendapat kemampuan setara
lulusan S1

Biaya pendaftaran : Rp.100.000-

Biaya kursus (termasuk buku, ujian dan sertifikat)

Level 1 : Rp. 350.000- (8 kali pertemuan)

Level 2 - 6 : Rp. 700.000- (16 kali pertemuan)/Level

Sistem Ujian Mandiri
Biaya Ujian Rp.25.000-, Jika lulus
langsung dapat sertifikat!

Silahkan mendapatkan
buku pelajaran
di Kantor ISSI

In House Training : Rp. 300.000,-/kali (Max. 15 orang)

Menerima Pendaftaran

Di Kantor PT. Industrial Support Services Indonesia
Ruko Menteng A22 Lippo Cikarang, Bekasi, Jawa-Barat
Tel. (021) 8990-9861

E-mail: ekaissi@indosat.net.id / infoissi@indosat.net.id

Hp. 0818-10-0286 (Indah)



読者の声

「こむにかし II」を拝読しました。たびたび他愛もない感想ですが、お送りします。

○日本人も非難することを避ける傾向にあります。そのために生まれたのが遠回しに話す、婉曲的な話法です。これは、小さな村社会で軋轢を生まずに生きていくための知恵の一つだと思います。おかげで、人々はお互いに直接的に非難しあうことなく、そして滅多に喧嘩や争いに陥らずに済んでいます。また、何となく指摘された点については、本人が気が付けば何となく修正もできます。

もちろんこれには問題もあります。遠回しのために伝わりにくい、婉曲的なのでイエスかノーかが分からない。つまり白黒つけなければならないときにスピード感がなくなってしまうわけです。また多様な文化的な背景がある諸外国との交流の中で、誤解を招きやすいということもあります。遠回し、婉曲的も大事、はっきり言うべきことを言うことも大事。惻隠の情を大事にしつつも、国際的な感覚も生かせることが必要なのかもしれません。

自分の欠点、問題点を明確にすることはとても大事です。ぼんやりと伝えていたのでは上手く改善されないし、学び、気づき、成長につながりません。そこは確かにはっきりとつたえるべきです。気を付けたいのは、伝え方、話し方、身振りや表情でしょう。相手を心から思いやっているとという態度を心がけるべきです。

非難されて怒るのもよくわかります。人は自分を否定されることを受け入れられません。非難は、見方によっては自己存在へ暴力ともなります。自己防衛に走るのも当然です。しかし、受け手の側が自分自身をもっと客観視し、冷静に自分の肉体と魂を分けてみているのであれば、素直に受け入れることが出来ると思います。性格、記憶、仕事、行動…。それらはいずれも自分自身そのものではありません。それは馬車でしかなく、本当の自分はそれを動かしている御者だと自覚できれば、いらだつことも少なくなるように思います。もっともこれが一番難しいのですが。

○子どもに無理やりに教え込むのは無駄です。特に早期教育は子供の発達を阻害するばかりです。子どもの脳の発達を踏まえつつ躰、教育をするべきです。しかし、子どもの可能性を大人が摘んでしまうことになりかねないということにも配慮が必要です。3歳ぐらいから一つのことを興味を持ち、徹底的に知りたいという子供もいます。そのときは、何歳であろうと力を貸すことが必要かと思えます。大人の物差しで子どもの発達をはかることはいけないでしょう。

基本は、じっくりと心を育み人間教育の基礎を行いつつ、ある程度器が出来てきたら学としての教育を行う。例外もあるということです。子どもを見て思うのは、私たちが思うほど天才は少なくないということです。

○欲はほどよく満たすことが大事なのだと思います。無理やり抑え込むと、風船のようにいつかは破裂してしまいます。また欲があればこそ、この世界は進歩、発展してきました。自動車に喩えれば、欲はエンジン、それをコントロールするのがドライバー。私達はよきドライバーでありたいものです。

○「教育について」はとても勉強になりました。大いに共感できるところがあります。これは何かの引用ですか。

大江 弘 元 PHP 研究所主席研究員



Suara Pembaca

Saya telah membaca “Komunikasi IJ”. Setiap kali walaupun kesan yang kecil-kecilan, saya kirimnya.

○ Orang Jepang juga cenderung menghindari menunjukkan kesalahan orang lain. Dan untuk itu yang diciptakan adalah ngomong dengan putar-putar, cara bicara yang tidak langsung. Menurut saya, hal ini adalah suatu ide bijaksana supaya di dalam masyarakat desa yang kecil, hidup dengan tanpa memunculkan perselisihan. Berkat hal tersebut, orang-orang tanpa menunjukkan kesalahan orang lain secara langsung, dan bisa hidup tanpa sering melakukan perkelahian dan perang. Dan mengenai hal yang ditunjuk secara tidak langsung, jika orang yang bersangkutan bisa menyadari, bisa diperbaiki.

Tentu saja mengenai hal tersebut ada masalah juga. Karena ngomongnya putar-putar, sulit disampaikan. Dan karena tidak langsung, tidak jelas Yes atau No. Maksudnya waktu harus dijelaskan putih atau hitam, tidak bisa memutuskan dalam waktu singkat. Dan di dalam pergaulan dengan beberapa luar negeri yang mempunyai latar belakang budaya berbagai macam, mudah memancing salah pengertian. Ngomong putar-putar, ngomong secara tidak langsung itu juga penting, namun ngomong secara jelas juga penting. Sambil mementingkan rasa mau tahu dengan dugaan, mungkin perlu juga menggunakan rasa internasional juga.

Menjelaskan kekurangan, masalah yang dimiliki oleh sendiri, itu sangat penting. Kalau menyampaikan secara tidak jelas, tidak bisa diperbaiki, dan tidak menyambung pada belajar, kesadaran, perkembangan. Hal tersebut harus disampaikan secara pasti. Yang perlu diperhatikan adalah cara penyampaian, cara bicara, sosok tubuh dan kondisi rawut muka. Harus selalu mempunyai rasa, bahwa betul-betul memperhatikan (menyayangi) lawan bicara.

Saya mengerti juga setelah ditunjuk kesalahan, akan marah. Namanya manusia, tidak bisa menerima hal yang menyangkal diri-sendiri. Kalau menunjukkan kesalahan, jika ganti pandangan, bisa menjadi kekerasan terhadap keberadaan diri-sendiri. Tentu saja akan menjaga diri. Akan tetapi pihak yang menerima, bisa melihat diri sendiri secara obyektif dan bisa melihat secara terpisah tubuh dan jiwa dengan dinginkan kepala, mungkin bisa menerima dengan hati tulus. Sifat, ingatan, kerja, pelaksanaan... Hal-hal tersebut semuanya bukan diri-sendiri seutuhnya. Itu hanya sebagai andon saja. Sebenarnya diri-sendiri adalah pasir andon. Jika bisa menyadari seperti itu, mungkin kemarahan bisa dikontrol. Namun itulah hal yang paling sulit.

○ Mengajar paksa terhadap anak, itu hal yang sia-sia. Khususnya kalau menjaral pada waktu usia dini, hanya menghalang perkembangan anak saja. Seharusnya dengan memahami perkembangan otak anak, mengasuh dan mendidik. Akan tetapi, perlu memperhatikan juga, bahwa kemungkinan perkembangan anak, ternyata orang tua mengcontohnya. Ada anak juga, sekitar usia 3 tahun tertarik pada suatu hal dan ingin mengetahui sampai dalamnya. Kalau seperti itu, walaupun usia berapa pun, harus membantunya. Mungkin tidak boleh mengukur anak, berdasarkan penggaris orang dewasa.

Dasarnya, mengembangkan hati dengan pelan-pelan, sambil melakukan hal dasar untuk pendidikan manusia, jika wadahnya sudah terbentuk melakukan pendidikan sebagai pengetahuan. Ada pengecualian juga. Saya begitu memantau anak, saya berpikir, anak jenius itu tidak begitu sedikit, daripada dugaan kita.

○ Mengenai nafsu, menurut saya memenuhi secara seimbang. Jika ditutupi secara paksa, sewaktu-waktu akan meletus, seperti balon. Karena adanya nafsu, dunia ini bisa maju dan bisa berkembang. Jika diibaratkan mobil, nafsu adalah mesin, dan yang kontrol itu adalah sopir. Kita berharap menjadi sopir yang baik.

○ Dari “Mengenai Pendidikan”, saya bisa belajar banyak. Banyak yang merasa simpati. Ini apakah sebagian dari buku sesuatu?



宮澤賢治の童話から Dari Dongeng Miyazawa Kenji

Miyazawa Kenji adalah penulis dongeng legendaris di Jepang. Dari dongeng dia, kita bisa mempelajari bermacam-macam hal. Maka kami sengaja memuat dongeng dia disertai terjemahan bahasa Indonesiannya.

フランドン農学校の豚 (1)

〔冒頭原稿一枚？なし〕

以外の物質は、みなすべて、よくこれを摂取《せっしゅ》して、脂肪《しぼう》若《もし》くは蛋白質《たんぱくしつ》となし、その体内に蓄積《ちくせき》す。」とこう書いてあったから、農学校の畜産《ちくさん》の、助手や又《また》小使などは金石でないものならばどんなものでも片《かた》っ端《ぱし》から、持って来てほうり出したのだ。

尤《もっと》もこれは豚の方では、それが生れつきなのだし、充分《じゅうぶん》によくなっていたから、けしていやだとも思わなかった。却《かえ》ってある夕方などは、殊《こと》に豚は自分の幸福を、感じて、天上に向けて感謝していた。というわけはその晩方、化学を習った一年生の、生徒が、自分の前に来ていかにも不思議そうにして、豚のからだを眺《なが》めて居た。豚の方でも時々は、あの小さなそら豆形《まめがた》の怒《おこ》ったような眼《め》をあげて、そちらをちらちら見ていたのだ。その生徒が云《い》った。

「ずいぶん豚というものは、奇体《きたい》なことになっている。水やスリッパや藁《わら》をたべて、それをいちばん上等な、脂肪や肉にこしらえる。豚のからだはまあたとえば生きた一つの触媒《しよくばい》だ。白金と同じことなのだ。無機体では白金だし有機体では豚なのだ。考えれば考える位、これは変になることだ。」

豚はもちろん自分の名が、白金と並べられたのを聞いた。それから豚は、白金が、一匁《いちもんめ》三十円することを、よく知っていたものだから、自分のからだか二十貫で、いくらになるということも勘定《かんじょう》がすぐ出来たのだ。豚はぴたっと耳を伏《ふ》せ、眼を半分だけ閉じて、前肢《まえあし》をきくっと曲げながらその勘定をやったのだ。

、実に六十万円だ。六十万円といったならそのころのフランドンあたりでは、まあ第一流の紳士《しんし》なのだ。いまだってそうかも知れない。さあ第一流の紳士だもの、豚がすっかり幸福を感じ、あの頭のかげの方の鮫《さめ》によく似た大きな口を、にやにや曲げてよろこんだのも、けして無理とは云われない。

ところが豚の幸福も、あまり永くは続かなかった。

それから二三日たって、そのフランドンの豚は、どさりと上から落ちて来た一かたまりのたべ物から、(大学生諸君、意志を鞏固《きょうこ》)にもち給《たま》え。いいかな。)たべ物の中から、一寸《ちよっと》

Babi dari sekolah pertanian Frandon (1)

[Tidak ada naskah halaman pertama?]

Karena ditulis “... mengenai zat selain... , semua dimasukkan dengan baik, dan dijadikan lemak atau protein, lalu disimpan di dalam tubuh tersebut.”, para asisten atau pembantu di bagian peternakan sekolah pertanian, asal bukan batu emas, apa pun datang bawa dan melemparkannya.

Namun kalau pihak babi, hal seperti itu yang dialami sejak lahir, dan sangat terbiasa, sama sekali tidak merasa tidak senang. Sebaliknya kalau sore hari, khususnya kalau babi, merasakan kebahagiaan diri-sendiri, mengucapkan terima kasih dengan menghadapi langit. Kenapa demikian? Karena pada malam hari itu, siswa tingkat 1 yang telah mempelajari kimia, datang ke depan saya, dan dengan rawut muka yang agak merasa aneh, memandang tubuh babi. Pihak babi pun kadang-kadang dengan mengangkat mata yang seperti marah dari bentuk biji, melihat arah situ juga. Siswa tersebut mengatakan.

“Namanya babi, kelihatannya menjadi agak aneh. Dengan makan air, sandal dan jerami, dan hal tersebut dijadikan lemak dan daging yang mutunya paling tinggi. Kalau tubuh babi, boleh diibaratkan salah satu katalisis yang hidup. Sama dengan mas putih. Kalau anorganik mas putih, dan kalau organik babi. Makin berpikir, makin merasa aneh.”

Babi sendiri, tentu saya mendengar nama diri-sendiri dibandingkan dengan mas putih. Dan kalau babi, mengetahui benar bahwa mas putih harganya 30 yen per 1 monme (3,75g). Maka tubuh sendiri 20 kan (1 kan = 3,75 kg), dan menjadi sekitar berapa, langsung bisa hitung. Babi menutup kuping dengan rapat, dan menutup mata hanya setengah, dan sambil membengkokkan kaki depan menghitungnya.

$20 \times 1000 \times 30 = 600000$ ternyata 600 ribu yen. Kalau 600 ribu yen, kalau di sekitar daerah Frandon pada waktu itu, orang kaya nomor satu. Sekarang pun mungkin masih demikian. Ayo, karena orang kaya nomor satu, babi betul-betul merasa bahagia, dia gembira dengan membengkokkan mulut besar yang mirip hiu yang ada di bayangan kepala. Ya, memang bisa jadi begitu.

Akan tetapi kebahagiaan babi itu pun, tidak bisa lanjut begitu lama.

Setelah 2, 3 hari kemudian, dari makanan yang dijatuhkan dari atas secara banyak, (para mahasiswa, menguatkan hati. Siap?) Dari makanan tersebut, melihat, benda yang putih yang langsing dan agak panjang, dan ujung ditanami bulu



細長い白いもので、さきにもじかい毛を植えた、ごく率直《そっちょく》に云うならば、ラクダ印の歯磨楊子《はみがきようじ》、それを見たのだ。どうもいやな説教で、折角洗礼を受けた、大学生諸君にすまないが少しこらえてくれ給え。

豚は実にぎよっとした。一体、その楊子の毛をみると、自分のからだ中の毛が、風に吹《ふ》かれた草のよう、ザラッザラッと鳴ったのだ。豚は実に永い間、変な顔して、眺めていたが、とうとう頭がくらくらして、いやな気分になった。いきなり向うの敷藁《しきわら》に頭を埋《う》めてくるっと寝《ね》てしまったのだ。

晩方になり少し気分がよくなって、豚はずかしく起きあがる。気分がいいと云ったって、結局豚の気分だから、苹果《りんご》のようにさくさくし、青ぞらのように光るわけではもちろんない。これ灰色の気分である。灰色にしてややつめたく、透明《とうめい》なるところの気分である。さればまことに豚の心もちをわかるには、豚になって見るより致《いた》し方ない。

外来ヨークシャイヤでも又黒いバクシャイヤでも豚は決して自分が魯鈍《ろどん》だとか、怠惰《たいだ》だとかは考えない。最も想像に困難なのは、豚が自分の平らなせなかを、棒でどしゃっとやられたとき何と感ずるかということだ。さあ、日本語だろうか伊太利垂《イタリア》語だろうか独乙《ドイツ》語だろうか英語だろうか。さあどう表現したらいいか。さりながら、結局は、叫び声以外わからない。カント博士と同様に全く不可知なのである。

yang pendek, kalau disebut dengan jujur, pembersih gigi (tusuk gigi) merek onta. Minta maaf, karena ngomongan yang tidak begitu menyenangkan, kepada para mahasiswa yang telah diingati, namun mohon sabar sedikit.

Si babi, betul-betul kaget. Begitu melihat bulu yang di pembersih gigi, bulu yang di seluruh tubuh, berbunyi zaaa, seperti rumput yang ditiup angin. Si babi waktu yang agak lama, dengan raut muka yang aneh, memandangnya. Namun akhirnya kepala merasa putar-putar, menjadi merasa tidak enak. Tiba-tiba memasuki kepala ke dalam jerami yang dilantai, dan tertidur.

Setelah menjadi malam, rasanya sedikit menjadi enak dan babi pelan-pelan bangun. Walaupun dikatakan rasanya menjadi enak, bagaimana pun perasaan babi, bukan berarti rasanya syaksyak seperti gigit aple, dan bersinar seperti langit biru. Itu adalah rasa warna abu-abu. Dengan warna abu-abu dan sedikit dingin, dan menjadi transparan. Rasaya seperti itu. Namun kalau ingin mengetahui perasaan babi, bagaimana pun kita harus menjadiii babi sendiri.

Baik Yorkshire dari luar negeri maupun Berkshire berwarna hitam, bagaimana pun tidak memikirkan bahwa diri-sendiri bodoh atau malas. Yang paling sulit dibayangkan adalah, waktu dipukul punggung yang rata dengan tongkat, dirasakan seperti apa. Entah bagaimana, apakah bahasa Jepang, atau bahasa Italy, atau bahasa Jerman, ataukah bahasa Inggris? Bagaimana menjelaskannya? Namun demikian selain suara teriak tidak bisa mengerti. Profesor Kant, sama sekali tidak tahu apa-apa.

編集後記 Dari Redaksi

コロナですが、最近では周りでコロナに感染したという話を全くと言って良いほど聞かなくなりました。知り合いの工場ですべて社員に簡易検査を行なったそうです。その結果、家族がコロナに感染したため帰省して戻ってきた従業員以外は全て陰性だったとのこと。

このような状況を見て、私は個人的にコロナはもう終息したと考えています。政府は未だワクチン接種を勧めています。しかし、もう、終息宣言をして通常の生活に戻しても良いのではないかと思います。

Kalau cerita mengenai Corona, baru-baru ini hampir tidak dengar lagi berita kena Corona di sekitarnya. Di pabrik yang saya kenal, katanya diadakan tes antigen terhadap seluruh karyawan. Hasilnya selain karyawan yang pernah mudik karena saudara kena Corona, semua negatif.

Dengan melihat kondisi seperti ini, saya pribadi anggap Corona sudah mereda. Pemerintah masih suruh vactine. Akan tetapi menurut saya sudah boleh dinyatakan masalah Corona sudah selesai dan kembalikan ke kondisi normal.

(Bedjo)



インダストリアル・サポート・サービス・
インドネシア (ISSI)
翻訳・通訳サービスのご案内

この度インダストリアル・サポート・サービス・インドネシア (ISSI) では、以下のような翻訳・通訳サービスを行っています。どうぞご利用ください。

1. 一般通訳サービス (インドネシア人)
 - 日本語能力試験 2 級以上 / 日本滞在経験 2 年以上のインドネシア人が担当いたします。
 - 料金： 半日 (4 時間まで) 1 万 3 千円
一日 (8 時間まで) 2 万 3 千円
(オーバータイム 3 千円 / 時)
2. 通訳サービス (日本人)
 - 在イ 25 年のベテラン通訳者による通訳サービス
 - 料金： 半日 (4 時間まで) 2 万 5 千円
一日 (8 時間まで) 4 万 8 千円
(オーバータイム 7 千円 / 時)
3. セミナー / 会議通訳サービス (日イ)
 - せっかく経験豊富な人にセミナーを行ってもらったのに、どうも現地スタッフの反応がまいち、セミナー後の結果が出にくいという経験はありませんか? セミナーの良し悪しは通訳によるものが大きいものです。
 - 料金： 半日 (4 時間まで) 3 万円
一日 (8 時間まで) 5 万 8 千円
(オーバータイム 8 千円 / 時)
4. 同時通訳 (日イ)
 - 料金： 半日 (4 時間まで) 4 万 8 千円
一日 (8 時間まで) 8 万 8 千円
(オーバータイム 1 万円 / 時)
5. 翻訳サービス
 - プロフェッショナル
 - ・ 今まで多くの技術関係、法律関係の翻訳を手がけています。どうぞ安心してご利用ください。
 - ・ 料金： 一般 1 ページ 3 千 5 百円
技術・法律 1 ページ 4 千円
レイアウト 1 ページにつき千円加算
(印刷までお任せいただけます)
 - 1 ページ (日本語 400 字、インドネシア語 150 単語) スタンダード
 - ・ 簡単な翻訳にご利用ください。
 - ・ 料金： 一般 1 ページ 1 8 万ルピア
1 ページ (日本語 400 字、インドネシア語 150 単語)
 - 翻訳の納品および支払い方法
 - ・ 基本的に翻訳物のやり取りは電子メールもしくはファックスで行います。支払いは翻訳が出来上がった時点で完成した翻訳と共に請求書をお送りしますので ISSI の銀行口座にお振込みください

お問い合わせ先

PT. インダストリアル・サポート・サービス・インドネシア (PT. ISSI)
Tel. : 021-8990-9861
Fax : 021-8990-7296
(月 - 金、9:00-18:00、日本語のできるスタッフが対応します)
E-mail : oku@issi.co.id / fuad@issi.co.id

携帯 : 0817-490-8510 (奥信行)
/ 0817-84-9702 (フアド)

Informasi jasa terjemahan dan penerjemah oleh
PT. Industrial Support Services Indonesia (ISSI)

Atas nama PT. Industrial Support Services Indonesia (ISSI), memberikan jasa sebagai berikut.

1. Jasa Penerjemah umum
 - Ditangani orang Indonesia yang sudah dapat ujian kemampuan bahasa Jepang 2 kyuu lebih / pernah tinggal di Jepang 2 tahun lebih.
 - Ongkos jasa: Setengah hari (sebelum 4 jam) 13.000 yen
Satu hari (sebelum 8 jam) 23.000 yen
(Over time 3.000 yen / jam)
 2. Jasa Penerjemah (Indonesia-Jepang)
 - Jasa Penerjemah yang profesional, yang ditangani oleh orang Jepang yang telah tinggal di Indonesia dan pengalaman sebagai penerjemah selama 25 tahun
 - Ongkos jasa: Setengah hari (sebelum 4 jam) 25.000 yen
Satu hari (sebelum 8 jam) 48.000 yen
(Over time 7.000 yen / jam)
 3. Jasa Penerjemah untuk Seminar / Rapat
 - Apakah ada pengalaman seperti, walaupun diadakan seminar oleh orang ahli, tetapi reaksi pesertanya tidak memuaskan, atau setelah seminar, hasilnya tidak begitu kelihatan. Kesuksesan seminar, sangat tergantung penerjemah juga.
 - Ongkos jasa: Setengah hari (sebelum 4 jam) 30.000 yen
Satu hari (sebelum 8 jam) 58.000 yen
(Over time 8.000 yen / jam)
 4. Simultaneous translator
 - Ongkos jasa: Setengah hari (sebelum 4 jam) 48.000 yen
Satu hari (sebelum 8 jam) 88.000 yen
(Over time 10.000 yen / jam)
 5. Jasa Terjemahan
 - Professional
 - ・ Ditangani oleh orang Jepang yang telah berpengalaman untuk berbagai macam terjemahan baik teknis maupun hukum.
 - ・ Ongkos jasa: Umum : 1 halaman 3.500 yen
Teknis / hukum : 1 halaman 4.000 yen
Gambar / daftar ditambah 1.000 yen per halaman
1 halaman (bahasa Jepang 400 huruf, bahasa Indonesia 150 kata)
- Siap menerima pesanan sampai ke percetakan.
- Ekonomis
 - ・ Ditangani oleh orang Indonesia berpengalaman.
 - ・ Ongkos jasa: 1 halaman Rp. 180.000-
1 halaman (bahasa Jepang 400 huruf, bahasa Indonesia 150 kata)
 - Cara mengirim terjemahan dan pembayaran
 - ・ Kirim mengirim bahan terjemahan secara dasar dilakukan melalui e-mail atau fax.
Setelah selesai terjemahan, kami akan kirim hasil terjemahan dan invoice, maka tolong ditransfer ke rekening ISSI.

Hubungi ke:

PT. Industrial Support Services Indonesia (PT. ISSI)
Tel. : 021-8990-9861
Fax : 021-8990-7296
(Senin-Jum'at, 9.00-17.00,
Ada staff yang bisa bahasa Jepang)
E-mail : fuad@issi.co.id
HP : 0817-84-9702 (Fuad)



広告 Iklan

報連相セミナーのご案内

社内のコミュニケーション、特に日本人の上司と現地社員とのコミュニケーションのことで悩んでいる会社が多いと思います。確かに言葉の問題、そして文化の違いなどもその原因にあると思います。しかし、言葉や文化の違いのせいにはかりすることで社員一人ひとりの能力を発揮することができないとしたら、それはとてももったいないことです。

最近、世界中で「報連相」という考え方が広まってきています。これは「報告」「連絡」「相談」を略したもので、特に社内においていかにコミュニケーションをスムーズに行うようにするかという考え方です。

この「報連相」を学ぶことにより、社内におけるコミュニケーションの重要性を再確認することができます。また、PT. ISSIの「報連相」セミナーでは「会社で仕事をするこの意味」から、「生きるこの意味」といったことまで触れ、社員一人ひとりの仕事に対する意気込みを変えのお手伝いをしています。

更には具体的な報連相のツールも簡単にご紹介していますので、社内における作業効率の改善にもお役に立つと思います。

PT. ISSI では「報連相セミナー」と共に「真・報連相セミナー(情報によるマネジメント)」も行ってあります。「報連相セミナー」終了後に合わせてご利用いただければより一層の効果が上がると思います。

セミナーの主な内容

- 日本企業発展の秘密
- 管理者の能力とは何か
- 生きる意味
- 「情報」に関するいくつかの考え方
- 「報告」「連絡」「相談」の説明
- 「お客様の苦情は会社の宝」
- ケーススタディ
- 「報告」「連絡」に関するいくつかのツールの紹介
- 二日セミナーの場合、二日目は日本報連相センターからの教材を使って報連相の質を更に深めます。

受講料

インハウス・トレーニング

お客様の工場・事務所に出席のセミナー
(参加者数は自由)

一日セミナー Rp.9,800,000- (九百八十万ルピア)
二日セミナー Rp.18,900,000- (千八百九十万ルピア)

インハウス・トレーニング・イン・ISSI

ISSIのセミナールームを利用したインハウス・トレーニング
(定員 24 名)

一日セミナー Rp.9,800,000- (九百八十万ルピア)
二日セミナー Rp.18,900,000- (千八百九十万ルピア)
※食事、スナック込み

※ 上記料金は全て税別です。

Seminar "HORENSO"

Mungkin ada banyak perusahaan yang sedang mengalami kesulitan tentang komunikasi di dalam perusahaan, khususnya antara atasan orang Jepang dan staff lokal. Memang perbedaan bahasa dan budaya menjadi salah satu penyebab. Akan tetapi karena meng-kambing-hitam-kan perbedaan bahasa dan budaya sehingga kalau tidak bisa memanfaatkan kemampuan karyawan masing-masing, hal itu amat sangat disayangkan.

Saat ini, sedang tersebar teori "HORENSO" di seluruh dunia. "HORENSO" adalah singkatan dari "HOUKOKU (Pelaporan)", "RENRAKU (Informasikan)" dan "Soudan (Konsultasi)", dan teori untuk melancarkan komunikasi di dalam perusahaan.

Dengan mempelajari "HORENSO" ini, dapat disadari kembali bagaimana pentingnya komunikasi di dalam perusahaan. Dan dengan seminar "HORENSO" di PT. ISSI, sampai menyinggung "kenapa kita bekerja di dalam perusahaan" sampai "kenapa kita hidup", maka bisa membantu meningkatkan semangat kerja karyawan masing-masing.

Selain itu, kami mengenalkan beberapa tool HORENSO secara nyata, maka dapat digunakan untuk memperbaiki (KAIZEN) efisiensi pekerjaan di dalam kantor.

Kami PT. ISSI, selain "Seminar HORENSO", menyediakan pula "Seminar SHIN-HORENSO (Managemen melalui informasi)". Jika dipergunakannya setelah selesai "Seminar HORENSO", efisiensinya dapat lebih ditingkatkan.

Isi Seminar

- Rahasia kemajuan perusahaan Jepang
- Kemampuan sebagai manager itu apa?
- Arti hidup
- Beberapa pikiran tentang "Informasi"
- Penjelasan mengenai "HOUKOKU", "RENRAKU" dan "Soudan"
- "Claim adalah harta perusahaan"
- Studi Kasus
- Mengenalkan beberapa tool yang ada kaitan "HOUKOKU" dan "RENRAKU"
- Jika seminar 2 hari, hari yang ke 2 meningkatkan mutu HORENSO, dengan menggunakan bahan dari Pusat HORENSO Jepang.

Biaya training

In House Training

Seminar yang dilakukan di tempat client (jumlah pesertanya bebas)

1 hari seminar	Rp.9.800.000-
	(Sembilan Juta Delapan Ratus Ribu Rupiah)
2 hari seminar	Rp.18.900.000-
	(Delapan Belas Juta Sembilan Ratus Ribu Rupiah)

In House Training in ISSI

In House Training yang menggunakan ruang seminar ISSI
(max. 24 orang)

1 hari seminar	Rp.9.800.000-
	(Sembilan Juta Delapan Ratus Ribu Rupiah)
2 hari seminar	Rp.18.900.000-
	(Delapan Belas Juta Sembilan Ratus Ribu Rupiah)

※ Ongkos jasa di atas semua tidak termasuk pajak (PPh 23).



PT. インダストリアル・サポート・サービス (PT. ISSI) が目指すもの

インドネシアは世界に誇る素晴らしい国です。自然環境、文化そして地下資源に至るまで全て揃っています。本当に豊かな国です。その証拠にオランダは350年にわたる植民地化で自分の国を大きくしました。現在はアメリカが同じようにインドネシアの豊かさによって自分の国を繁栄させています。もし、インドネシアが貧しい国だとしたら、だれがインドネシアを植民地化しようとするのでしょうか。

しかし、インドネシアがオランダやアメリカに搾取されているのは事実です。どうして搾取されし続けているのでしょうか。一般的にある国をコントロールしようとする場合、経済封鎖を使います。しかし、インドネシアは経済封鎖をされてもほとんど全ての資源が国内にあるので、ほとんど問題はありませぬ。では、どうして搾取されているのでしょうか。それは国力が足りないからです。国力とは何でしょう。それは人です。国民です。国民一人一人の能力。それがそのまま国力になると思います。

人の能力とは一体なんなのでしょうか。それはものを考える力だと思っています。そして、ものを考える力は読書により培われると思っています。

私は以前、本の販売部数をベースに日本とインドネシアの読書量の違いを調べました。国民一人当たり、一年間に何冊の本を購入しているかというものです。そこで出てきた数字はインドネシアが0.3冊、日本が5.9冊というものでした。それを国力としてみると、なんとインドネシアの国力は日本の20分の1ということになります。これが現実です。この状態でどうしてインドネシアを搾取の危機から守ることができるのでしょうか。

私がPT. ISSIを立ち上げた一つの目的はそこにあります。インドネシアの読書率を引き上げるためにできることをしたい。そういった思いです。

設立当初から続けているのはインドネシア語と日本語によるバイリンガルマガジンの発行です。本屋さんで本を買うお金がなくても、読みたいものがなくても、無料で読み物を手に入れることができます。なるべく質の良い本や、素晴らしい方々の書き物をご紹介しますようにしています。そして、書き溜めたものを少しずつ書籍化しています。

それから、日本語教育です。一般の日本語教育では会話中心のものがほとんどですが、PT ISSIでは、独自に開発した教材で、読み書きを中心とした日本語教育を行っています。それは、インドネシア語の良い書籍がなくても、日本語で読むことができれば、世界中のさまざまなものを読むことができるからです。

百田尚樹の「日本国紀」に次のような一節があります。「また日本は欧米の書物を数多く翻訳したことにより、日本語で世界中の本が読める特異な国となった。おそらく当時たった一つの言語で、世界の社会科学や自然科学の本だけでなく、古今東西の文学を読めた国は日本だけであったと思われる。同時代の中国人や朝鮮人、それに東南アジアのインテリたちが、懸命に日本語を学んだ理由はここにもあった。当時、日本語こそ、東アジアで最高の国際言語であったのだ。」(百田尚樹「日本国紀」332ページ、株式会社幻冬舎)

PT ISSIでは「私たちは企業は理想的な教育機関であると考えています」をスローガンに企業教育に力を入れています。中身のあるわかりやすい教材をインドネシア語に訳してのトレーニング。コンサルタント。そして翻訳、通訳を通し、企業研修のお手伝いをしていきます。

微力ではありますが、インドネシアの発展のためにできることを続けていきたいと思っています。私は、インドネシアと日本が一つになることを夢見ています。インドネシアと日本が一つになれば、全てのものが揃います。そして、その力を持ってすれば世界平和も夢ではありません。



Visi dan Misi PT. Industrial Support Services Indonesia (PT. ISSI)

Negara Indonesia adalah negara yang bagus yang bisa dibanggakan pada seluruh dunia. Segara hal lengkap seperti lingkungan alam, budaya sampai sumber daya mineral (bawah tanah). Buktinya Belanda menjajah selama 350 tahun dan membesarkan negara sendiri. Kalau sekarang Amerika juga memakmurkan negara sendiri dengan kekayaan Indonesia. Seandainya kalau Indonesia negara miskin, siapa yang ingin menjajah Indonesia?

Namun Indonesia secara nyata dieksploitasi oleh Belanda dan Amerika. Kenapa dieksploitasi terus? Pada umumnya jika ingin kontrol suatu negara, menggunakan cara embargo. Akan tetapi kalau Indonesia, karena hampir semua sumber daya ada di dalam negeri, hampir tidak ada masalah. Kalau begitu kenapa dieksploitasi. Karena kekuatan negaranya kurang. Kekuatan negara itu apa? Iyalah manusia. Rakyat. Kemampuan rakyat satu orang satu orang. Itulah langsung menjadi kekuatan negara.

Kalau begitu kemampuan manusia itu apa? Menurut saya, daya berpikir. Dan saya anggap daya berpikir tersebut dapat dikembangkan dengan baca buku.

Saya dulu pernah mencari perbedaan minat baca buku antara Indonesia dan Jepang, berdasarkan jumlah penjualan buku. Saya hitung rata-rata satu orang beli berapa buku dalam 1 tahun. Dan saya dapat angka, iyalah Indonesia 0,3 buku dan Jepang 5,9 buku. Jika angka itu dianggap sebagai kekuatan negara, ternyata kekuatan negara di Indonesia menjadi 1 per 20 dibandingkan Jepang. Inilah kenyataan. Dengan kondisi seperti ini, bagaimana bisa amankan Indonesia dari ancaman eksploitasi?

Kenapa saya mendirikan PT. ISSI, salah satu tujuannya ada di situ. Supaya meningkatkan minat baca di Indonesia, ingin melakukan apa yang bisa dilakukan. Itulah keinginan saya.

Sejak didirikan yang dilanjutkan adalah menerbitkan majalah dwi bahasa antara bahasa Indonesia dan bahasa Jepang. Walaupun tidak ada dana untuk beli buku di toko buku, walaupun tidak ada yang ingin baca, dapat bacaan dengan gratis. Saya berusaha memperkenalkan buku bermutu dan tulisan yang ditulis oleh orang bermutu. Dan yang telah ditumpuk di majalah dijadikan buku sedikit demi sedikit.

Kemudian pelajaran bahasa Jepang. Kalau pelajaran bahasa Jepang umum, hampir semua berdasarkan percakapan. Namun kalau di PT. ISSI menggunakan bahan pelajaran yang dikembangkan secara khusus. Bahan tersebut berdasarkan baca dan menulis. Karena walaupun di Indonesia tidak ada buku yang bagus, jika bisa baca dengan bahasa Jepang, bisa baca berbagai buku dalam dunia.

Naoki Hyakuta menulis sebagai berikut dalam buku "Catatan negara Jepang". "Dan kalau Jepang, karena telah diterjemahkan buku Barat banyak sekali, menjadi negara yang unik yang mana bisa baca buku seluruh dunia dengan bahasa Jepang. Ada kemungkinan pada waktu itu, dengan satu bahasa bisa baca buku bukan hanya ilmu pengetahuan sosial dan ilmu pengetahuan alam dunia saja, namun sastra seluruh dunia, hanya Jepang saja. Orang China orang Korea dan ilmuwan Asia Tenggara belajar bahasa Jepang dengan mati-matian, alasannya ada di situ. Pada waktu itu, bahasa Jepang lah bahasa internasional yang paling tinggi dalam Asia Timur." (Naoki Hyakuta "Catatan negara Jepang" hal. 332, PT. Gentousha)

PT. ISSI mentitik beratkan pendidikan dalam perusahaan dengan semboyan "Kami anggap perusahaan adalah lembaga pendidikan yang paling ideal." Training dengan terjemahkan pada bahasa Indonesia dari bahan pelajaran yang bermutu dan mudah dimengerti. Konsultan. Dan melalui terjemahan baik tulisan maupun lisan, membantu training / pendidikan dalam perusahaan.

Apa yang bisa dilakukan hanya sedikit saja, namun ingin melanjutkan apa yang bisa dilakukan demi kemajuan Indonesia. Saya bermimpi Indonesia dan Jepang akan menyatu. Jika Indonesia dan Jepang menjadi satu, semua menjadi lengkap. Dan jika menggunakan daya tersebut, dapat mewujudkan perdamaian dunia.